

大岱遺跡

—風力発電所に伴う送電線支持物（鉄塔）建設事業に係る発掘調査報告書—

2012・12

上ノ国町教育委員会

序

本書は、町内字勝山地区における風力発電所に伴う送電線支持物（鉄塔）建設事業に伴う大岱遺跡の発掘調査報告書であります。

事業が計画されるとともに北海道教育委員会の指導のもと試掘調査を実施し、その結果に基づき協議が行われ、本調査を実施するに至りました。

調査の結果、縄文時代早期（後半）、中期後半～後期初頭の縄文土器が確認され、貴重な資料を得ることができました。

事業推進にあたり北海道教育委員会をはじめとする各関係機関の多くの方々に多大なご協力を賜りましたことを衷心より感謝申し上げるところであり、今後におきましてもより一層のご教導をお願い申し上げます。

平成24年12月

北海道上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真目次

例言／引用参考文献

I 大岱遺跡の調査	1
1. 遺跡の位置	1
2. 周辺の遺跡	1
3. 過年度における遺跡の概要	1
4. 調査方法	1
5. 調査経過	2
6. 基本層序	2
II 検出遺構	6
1. 遺構の概要	6
III 遺構外出土遺物	20
IV 自然科学分析	35
1. 大岱遺跡出土黒曜石製石器の产地推定	35
2. 大岱遺跡から出土した動物遺体	39
V まとめ	41

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 調査区位置図	3
第3図 試掘調査（TP1～4）箇所及び出土遺物・グリッド配置図	4
第4図 畠状遺構平面図	5
第5図 遺構配置図・土層堆積図	9
第6図 調査区土層堆積図	11
第7図 土器集中箇所位置図	13
第8図 堅穴建物跡1 出土遺物	15
第9図 堅穴建物跡1・2 出土遺物	16
第10図 堅穴建物跡3～7 出土遺物	17
第11図 堅穴建物跡8 出土遺物	18
第12図 堅穴建物跡9・土壤3 出土遺物	19
第13図 IVa層 出土遺物1	20
第14図 IVa層 出土遺物2	21
第15図 IVb層 出土遺物1	22
第16図 IVb層 出土遺物2	23
第17図 IVc層 出土遺物	24

表目次

表1 東西ベルト土層観察表(A～A')	9
表2 南北ベルト土層観察表(B～B')	9

表3 堅穴建物跡1・3 土層観察表(C～C')	12
表4 堅穴建物跡2 土層観察表(D～D')	12
表5 堅穴建物跡3・4 土層観察表(E～E')	12
表6 堅穴建物跡5 土層観察表(F～F')	12
表7 堅穴建物跡2・7 土層観察表(G～G')	12
表8 堅穴建物跡2・8 土層観察表(H～H')	12
表9 堅穴建物跡8・土壤3 土層観察表(I～I')	12
表10 堅穴建物跡1・土壤1 土層観察表(J～J')	12
表11 土壤2 土層観察表(K～K')	12
表12 出土遺物観察表	27
表13 遺構出土遺物集計表（縄文土器）	29
表14 遺構出土遺物集計表（縄文土器以外）	30
表15 IV層出土遺物集計表（縄文土器）	31
表16 遺構外（IV層除く）出土遺物集計表（縄文土器）	32
表17 遺構外（IV層除く）出土遺物集計表（縄文土器以外）	33

写真図版

PL.1 調査写真	
PL.2 調査写真	
PL.3 調査写真	
PL.4 分析黒曜石写真	
PL.5 分析動物遺体写真	
PL.6 調査写真	
PL.7 調査写真	
PL.8 調査写真	
PL.9 調査写真	
PL.10 調査写真	
PL.11 調査写真	
PL.12 調査写真	
PL.13 出土遺物（縄文土器・石器 堅穴建物跡1）	
PL.14 出土遺物（縄文土器・石器 堅穴建物跡1－1～8、2～9～13）	
PL.15 出土遺物（縄文土器・石器 堅穴建物跡3－1～2、4～3～8、5～9～10）	
PL.16 出土遺物（縄文土器・石器 堅穴建物跡6～1、7～2・3、8～4～17）	
PL.17 出土遺物（縄文土器 堅穴建物跡9～1～3、土壤3～6、試掘調査7～11）	
PL.18 出土遺物（縄文土器 IVa層）	
PL.19 出土遺物（縄文土器 IVa層）	
PL.20 出土遺物（縄文土器 IVb層）	
PL.21 出土遺物（縄文土器 IVb層）	
PL.22 出土遺物（縄文土器 IVc層）	

例　　言

1. 本書は、平成 24 年度に実施した風力発電所に伴う送電線支持物（鉄塔）の建設に係る大岱遺跡（C-02-54）の発掘調査をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

　　教育長　金子　廣

上ノ国町教育委員会事務局

　　局長　矢代　智樹

文化財グループ

　　主幹　上野　敦也

　　主査　渕田俊一郎

学芸員　塙田　直哉（担当者・調査員）

作業員　井越　祥子、勝田　百香

　　川口　泰子、鈴木　千春

　　長尾江梨子、藤谷　弘美

　　鷲田　晃子

3. 本書の編集・執筆は塙田が行ない、遺構・遺物の実測図及び図版等の作成については各作業員が分担して行なった。

4. 本書に掲載した写真の撮影は、塙田が行なった。写真の撮影は、デジタル一眼レフカメラを使用した。

5. 捜図の縮尺は、各図にスケールを付して示した。写真の縮尺は不統一である。

6. 遺物の点数については、接合前の点数を表す。

7. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局 1993）を使用した。

8. 土器・陶磁器の分類は、以下に基づいて行なった。

・繩文土器－北海道埋蔵文化財センターの『森町三次郎川右岸遺跡』第 233 集（北海道埋蔵文化財センター 2006）を参考にし、加筆している。
分類は以下のとおりである。

I 群 繩文時代早期に属する土器群

a 類 貝殻文が施されるもの

b 類 繩文、燃糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等の施されるもの

II 群 繩文時代前期に属する土器群

a 類 繩文の施された丸底、尖底を特色とするもの

b 類 円筒下唇式土器に相当するもの

III 群 繩文時代中期に属する土器群

a 類 円筒上唇式土器に相当、もしくはその系統を引くと考えられるサイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当しないし平行するもの識別の際 III 群 b - 1 類の胴部破片も一部含む可能性がある

b 類 III 群 a 類を中期の前半として後半に属するもので榎林以降の土器群である

b - 1 類 榎林式のうち大安在 B 式に近い時期のものと、大安在 B 式に相当または並行するもの

b - 2 類 榎林式のうち大安在 B 式に近い時期のものと、大安在 B 式に相当または並行するもの

b - 3 類 ノダップ式、煉瓦台式に相当または並行するもの

IV 群 繩文時代後期に属する土器群

a 類 天祐寺式、涌元式、鳥崎式、大津式、白坂 3 式、十腰内 I 式に相当ないしは並行するもの

b 類 ウサクマイ C 式、手稻式、鰐間式、加曾利 B 式ないし並行するもの

c 類 堂林式、三ツ谷式、湯の里 3 式に相当ないしは並行するもの

V 群 繩文時代晚期に属する土器群

a 類 大洞 B 式、大洞 C 式に相当ないしは並行するもの

b 類 大洞 C 1 式、大洞 C 2 式に相当ないしは並行するもの

c 類 大洞 A 式、大洞 A' に相当ないしは並行するもの

VI 群 統繩文時代に属する土器群

VII 群 撥文時代に属する土器群

・肥前系陶磁器－九州近世陶磁研究会の『九州陶磁の編年』（九州近世陶磁学会 2000）

・出土銭貨－兵庫埋納銭調査会の『近世の出土銭 II - 分類図版篇 -』（兵庫埋蔵銭調査会 1998）

9. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。

10. 調査ならばに本書の作成にあたり、次の関

- 係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。記して感謝申し上げたい（敬称略）。
- 北海道教育庁文化財・博物館課 高橋和樹
田才雅彦 八戸市博物館 工藤竹久 二戸市埋蔵文化財センター 関 豊 市立函館博物館 野村祐一 七飯町教育委員会 山田 央 森町教育委員会 高橋 純
11. 引用参考文献
- 阿部千春 2004「大船遺跡出土の大安在B式土器」『第2回 東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題－資料集－』海峡土器編年研究会
- 大沼忠春 1981「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』第66巻 第4号 日本考古学会
- 大場利夫 1978「北海道」『新版考古学講座』第3巻 雄山閣
- 葛西智義 1991「縄文時代中期末葉から後期前葉の土器について」『文教考古』第6号 札幌学院大学考古学研究室
- 川内 基 1988「北海道の大木系土器」『ひばり』No.10 北海道文化財研究所
- 上ノ国村教育委員会・江差町教育委員会 1955『檜山南部の遺跡』
- 上ノ国町教育委員会 1979『小砂子遺跡』
- 上ノ国町教育委員会 1987『大岱沢A遺跡』
- 桑原 譲 1968「余市式土器」『考古学雑誌』54巻1号 日本考古学会
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1984『登別市千歳5遺跡』第21集
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1985『上ノ町小岱遺跡』第30集
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2006「I. 4(5) 土器の分類」『森町三次郎川右岸遺跡』第233集
- 鈴木克彦 1976「東北地方北部における大木系土器文化の編年的考察」『北奥古代文化』第8号 北奥古代文化研究会
- 鈴木克彦 1998「東北地方北部の縄文中期後半の土器」『研究紀要』第3号 青森県埋蔵文化財センター
- 鈴木克彦 1999「北海道渡島・桧山地域の中期末から後期初頭の編年」『北海道考古学』第35輯 北海道考古学会
- 高橋正勝 1974「知内町涌元出土の土器と北海道南西部の縄文時代後期前半について」『北海道の文化』31 北海道文化財保護協会
- 高橋正勝 1983「北海道南部の土器」『縄文文化の研究』第4巻
- 高橋正勝 1966「函館市見晴町遺跡の資料」『北海道青年人類科学研究会会誌』No.8
- 高橋正勝 1972「北海道における縄文時代中期の終末（1）」『北海道青年人類科学研究会会誌』No.9
- 高橋正勝 1972「北海道における縄文時代中期の終末（2）」『北海道青年人類科学研究会会誌』No.10
- 角田文衛 1939「陸奥榎林遺跡の研究」『考古学論叢』第10輯 考古学研究会
- 永井久美男 1998『近世の出土銭II一分類図版篇一』兵庫埋蔵銭調査会
- 成田滋彦 2003「最花式土器 - 在地式土器群の様相 - 」『研究紀要』第8号 青森県埋蔵文化財センター
- 函館市教育委員会 1979『見晴町B遺跡発掘調査報告書』
- 函館市教育委員会 1997『湯川貝塚』
- 北海道第四紀研究会 1974『西股』
- 松前町郷土資料館 1984『松前町郷土資料館調査報告』第1集
- 松前町教育委員会 1988『寺町貝塚』
- 松崎岩徳 1956『上ノ国村史』上ノ国村
- 松崎岩徳 1962『続上ノ国村史』上ノ国村
- 柳澤清一 1991「「榎林式」から「最花式」（中の平三式）へ」『古代』91号 早稲田大学考古学会
- 柳澤清一 1993「北奥「大木10式並行土器」の編年」『二十一世紀への考古学』櫻井清彦先生古希記念会
- 宮 宏明 1981「ノダップII式土器の検討」『考古学研究』第28巻第3号（通巻111号）考古学研究会
- 山田 央 2001「北海道南西部における縄文時代中期末葉の土器について」『渡島半島の考古学』南北海道考古学情報交換会

I 大岱遺跡の調査

1. 遺跡の位置

上ノ国町は、渡島半島西南部の檜山管内の最南端に位置する。西には日本海より奥尻島、渡島大島を望み、北は江差町、南は松前町に接する。また、東は袴腰岳（699m）、七ヶ岳（957m）、大千軒岳（1,027m）など渡島山地の高峰を分水嶺にして津軽海峡側の木古内、知内町に接する。町の中央部は海拔500m程の渡島山地の山々によって占められその裾野に続く丘陵は海岸近くまでせり出している。

本町は、檜山管内で最大の面積（547.58 km²）を有するが、前述したような地勢から平野部は全面積の1割にも満たない。このため、諸集落は海岸線と河川流域の僅かな平野部に点在している。町の北部には山間部を開削して西北に流れる天の川がある。天の川下流の右岸には幅約2kmの沖積平野が広がり、穀り豊かな水田地帯を形成している。他方、天の川下流の左岸は大平山（363m）裾野から夷王山に続く丘陵がせまっている。

本遺跡は、日本海に注ぐ天の川河口より約1.1 km南東の左岸に位置する。遺跡は、標高10～25 mの北側に傾斜する緩斜面に所在し、調査地点は標高13.5m～14.7mにあたる。調査地点からは、江差からせたな町に続く海岸線が一望できる。一方、南側は急斜面をなして崖に続いている。

遺跡名である大岱は、遺跡が所在する台地の南西侧標高25m～50mの地点の旧地名で、大岱の名が確認されるため、それに由来すると思われる。

発掘調査は、上ノ国町字勝山413-3番地の天の川河口左岸に所在する高齢者事業団裏手にあたる標高約14mの丘陵上に12m×12m（144m²）の調査区を設定して実施した。

2. 周辺の遺跡（図1）

大岱遺跡が所在する天の川河口周辺には、国指定史跡の上之国館跡（花沢館跡・洲崎館跡・勝山館跡）と周知の埋蔵文化財包蔵地が合計31箇所確認され、町内でも遺跡の分布が濃い地域であることが知られている。

本遺跡の西側に所在する沢は、遺跡の南西より流れ天の川に至る。この沢沿いの台地には小岱遺跡、大岱A遺跡、大岱B遺跡が所在する。ま

た、本遺跡の南東側には、おそらく本遺跡と一緒にするものと思われる大岱B遺跡が所在する。大岱B遺跡は縄文時代中期後半から後期の遺物包含地で、昭和57・58年に大岱遺跡とともに範囲確認調査が行われている。

また、小岱遺跡では農道整備事業に伴って昭和60年に緊急調査が行われている。

同遺跡の発掘調査の結果からは、縄文時代中期後葉の見晴町式・森越式土器を主体として縄文中期前葉から晩期前葉にわたる遺物が出土し、縄文時代中期前葉から後期前葉の住居址16基、プラスコ状ピット等が検出している。さらに、小岱遺跡の約500m南西には大岱B遺跡が所在する。

大岱B遺跡は、昭和61年に確認されたが、範囲確認調査で先史時代の遺物と共に近世の「寛永通宝」などの銅錢、鉄錢が出土している。

3. 過年度における遺跡の概要

大岱遺跡では、昭和28年に地元住民によって縄文時代の礫石器が表面採集されている。

その後、昭和47年に上ノ国町老人福祉センター建設に伴う緊急調査が行われ、縄文時代の前期前半・中期前半・中期終末～後期初頭・晩期の遺構・遺物が確認されている。

昭和58年4月に町内建設会社から農地造成のための事前協議書が提出され、上ノ国町教育委員会が同年4月7・8日に遺跡範囲確認調査（B調査）を実施し、縄文時代の中期末～後期初頭の遺物が確認され、北海道教育委員会より工事に際して発掘調査が必要であるとの回答を得ている（昭和58年6月13日付、教文第3131号）。

しかしながら、同年5月3日に上ノ国町教育委員会に連絡もなく、さらに発掘調査を事前に実施しないまま農地造成工事が行われ、5月8日に工事の中止をしたもの遺跡の一部が破壊されている。

4. 調査方法

調査では4m×4mのグリッドを設定し、南北方向に北から南へA、B、C、東西方向に西から東へ1、2、3とし、A1、B1、C1…としている。

掘削方法は、すべて人力で行って調査区中央に十字のセクションベルトを設定し、土層確認を行いながら調査を遂行している。

遺構の実測は平板で行い、全体の平面図・セクション図について1/20、1/40の縮尺を用いて実施している。遺構番号は、検出された順に遺構の種類別で番号を付した。

遺物は、グリッド・層位別に取り上げを行っている。また、遺物が集中して出土した箇所については1/10の縮尺で実測を行った。

5. 調査経過

平成23年

8月10日 電源開発株式会社より事前協議書を受領する。

8月19日 工事予定箇所の4隅に1m×1mのテストピットを設定し、遺跡範囲確認調査（B調査）を実施した。調査の結果は、縄文時代中期末～後期初頭の縄文時代の土器200点、石器5点が出土している。

9月2日 北海道教育委員会より電源開発株式会社へ工事の事前に記録保存を目的とした発掘調査が必要であるとの回答があつたため、次年度に上ノ国町教育委員会が発掘調査を実施する運びとなつた。

平成24年

5月7日 器材を搬入し、周辺の環境整備をして調査区の設定を行う。

表土層の掘削を行い、擾乱層から縄文土器・石器が出土している。

5月 II層の検出を行い、Ko-d火山灰を確認した。また、Ko-d火山灰を壊して竪状遺構が確認された。竪状遺構の実測を行う。II層面を掘削したため、調査区内の清掃を行い全体の写真を撮影する。

6月 III層の掘削を行い、遺構・遺物がないことを確認した。また、IV層の検出を行い、上位にB-Tm火山灰を確認した。

7月 IV層を土質の相違からIVa、IVb、IVc層に大別し、層位毎に掘削及び遺物の取上げを行った。IV層掘削の時点から遺物が大量に出土し、毎日バケツを用いて遺物を整理作業場所まで持ち帰っている。

8月 竪穴建物跡2から石組炉が検出される。また、他の竪穴建物跡からも炉跡と考えられる焼土範囲が確認される。

9月 竪穴建物跡が9軒検出される。V層のソフトローム層まで掘削し、遺構検出を行つた。

10月 調査区の全体清掃を実施し、完掘写真を撮影した。完掘の平面図及び調査区壁面のセクション図を作成した。調査区の南東部から埋戻しを開始した。

10月11日 調査区の埋戻しが終了し、器材の撤収を行つた。

6. 基本層序

本調査で確認された基本層序は、以下の通りであるが、調査区北西部のA1・A2・B1・B2グリッドでは一部、縄文時代遺物包含層であるIV層が削平されていることや擾乱層が厚い箇所で約60cm堆積していることが確認されている。

これは、昭和58年5月3日に町内の建設会社によって実施された大岱遺跡地区に係る農地造成工事の際に生じた削平及び土砂と思われる。

I 層：近現代に相当する堆積層である。

II 層：近世に相当する堆積層である。20～30cmの厚さで堆積し、下部には1640年代降灰のKo-d（駒ヶ岳 d）火山灰の層を含む。

III 層：Ko-d火山灰下位～B-Tm火山灰上位に位置し、約20cmの厚さで堆積する擦文時代～近世初頭に相当する堆積である。

本調査では、遺構・遺物ともに確認されていない。

IV 層：上面にB-Tm火山灰が堆積し、縄文時代中期後半～後期初頭に相当する堆積層で土質から3層に細分される。

IVa層：10～15cmの厚さで堆積する黒色の腐植土層で、擦文時代に相当する層である。

IVb層：15～35cmの厚さで堆積するIVa層の下位に堆積する黒褐色の腐植土層である。当層位から最も多く遺物が出土している。

IVc層：10～15cmの厚さで堆積するIVb層の下位に堆積する黒色の腐植土層で、縄文時代に相当する層である。

V 層：無遺物層で2層に細分される。

Va層：ソフトローム層である。

Vb層：ハードローム層である。

VI 層：無遺物層で礫及び礫粒を多量に含む岩盤層である。

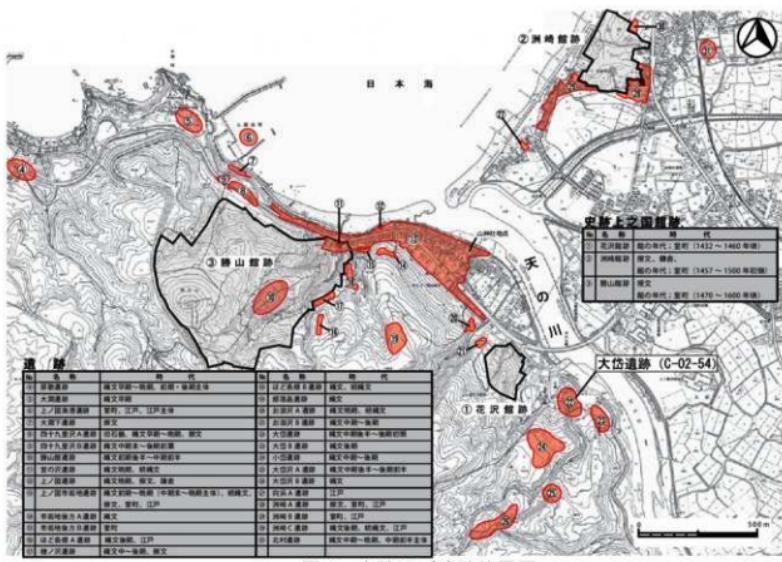


図1 史跡及び遺跡位置図

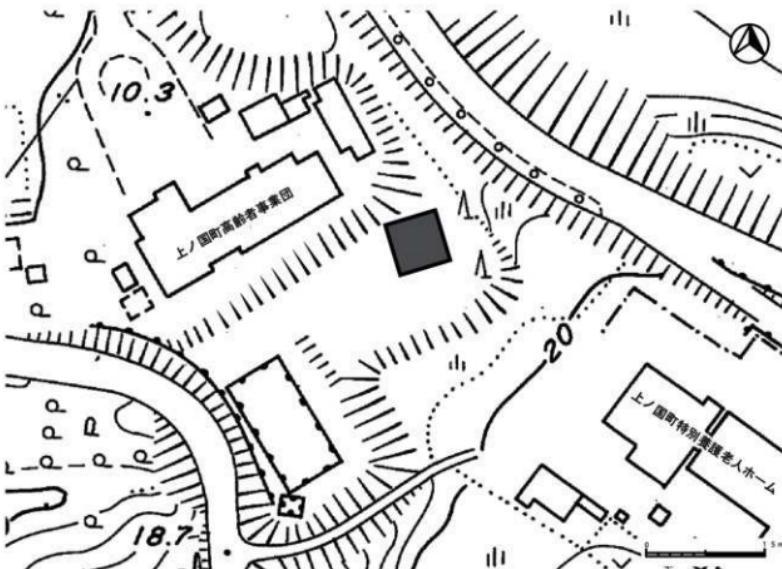
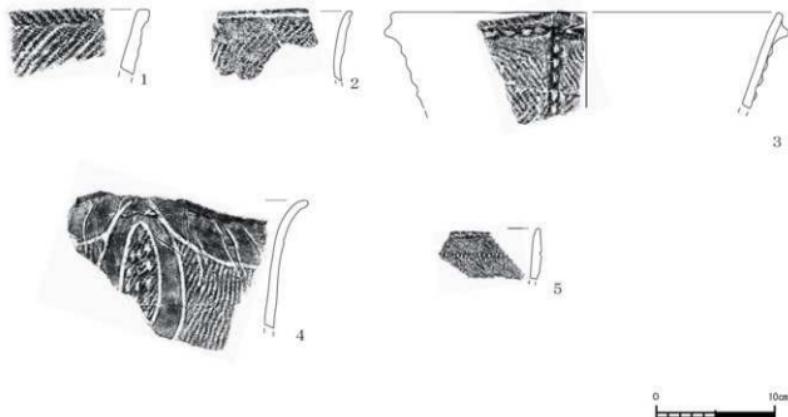
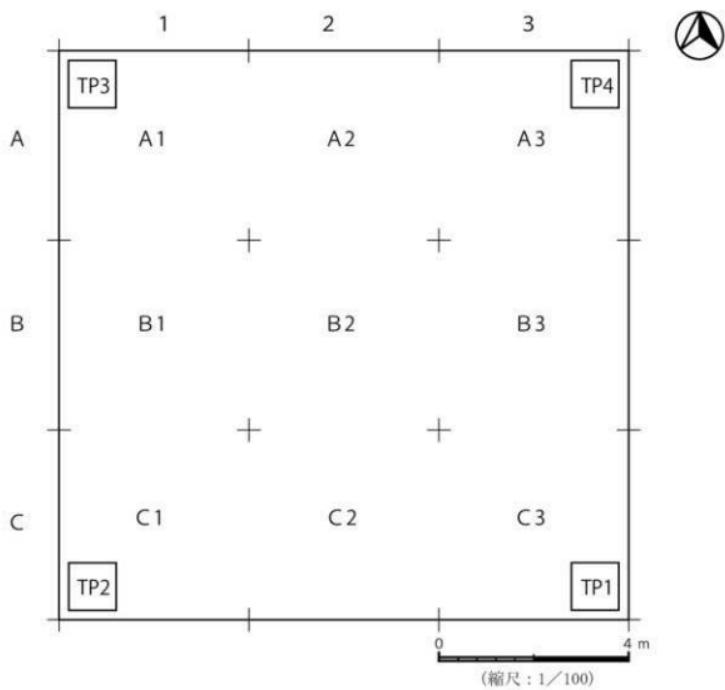
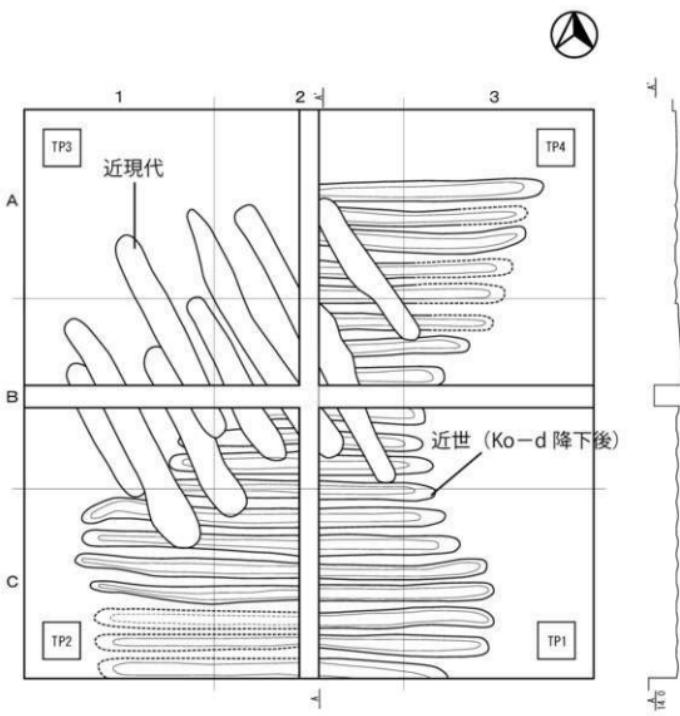


図2 調査区位置図



第3図 試掘調査 (TP1～4) 箇所及び出土遺物・グリッド配置図



0 4 m
(縮尺: 1/100)

図4 訓状遺構平面図

II 検出遺構の概要

1. 遺構の概要

本調査では、縄文時代の堅穴建物跡9軒、土壙3基、溝1条、柱穴などの遺構の他、江戸時代の畝状遺構が確認されている。遺構の検出はおもにVa層で行っている。

遺物は、総計42,884点で縄文時代（早期・中期中葉～後期初頭）、江戸時代に相当するものが出土している（表13～17）。1m²あたりの遺物出土点数は、約298点と高い数値を示していた。

遺物の内訳は、縄文時代の遺物が42,562点（縄文土器38,589点・石器3,931点・土製品3点・石製品2点・自然遺物337点）、江戸時代が22点（陶磁器8点、鉄製品8点、銅製品6点）である。

遺構出土の遺物点数（畝状遺構を除く）は、縄文時代の遺物が11,104点（縄文土器9,466点・石器1,479点・土製品1点・石製品1点・自然遺物157点）となり、遺構よりIVa～IVc層の遺物包含層からの出土が多い結果となった。

口縁部計測法による個体数の算出では144,85個体となっている。口縁部計測法は宇野隆夫氏の方法を参考としている（宇野1992）。

縄文土器の分類は、その破片数が38,589点と膨大であったため、口縁部が残存する2,817点について分類の対象としている。

なお、III群b-I～IV群aに相当する土器については、いずれの型式に当てはまるか判断に迷うものが少なくないため、施文の手法によって分類している（分類基準は「III遺構外出土遺物」を参照）。

堅穴建物跡1（5、6、8、9-1～8図、PL3-2、6-1、11-4、13～14-4）

【位置】調査区南東部のC2・C3グリッドに位置する。

【形態・規模】平面形は調査区外へ延びるため詳細は不明であるが、深さ42cmを測る。堅穴南東部上位に盛土と思われる堆積（表3）がセクション面で確認されたが本遺構との関係は不明である。地床炉と思われる幅約150cmの焼土範囲がみられる。貼床は確認されなかった。

【堆積】盛土は、礫混じりの黄褐色土を多く含

み、堅穴内では黒色土が多く堆積する。

【新旧関係】堅穴建物跡3より新しく、盛土より古い。Pit10～15・71・76～78を伴い、Pit1・80より古い。

【出土遺物】縄文土器、石器、自然遺物、石製品が合計3,052点出土している。遺物の大半は覆土中からのもので床面からの出土は少量である。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

土壙1（5、6図、PL11-3）

【位置】調査区南東のC3グリッドの堅穴建物跡1内に位置する。

【形態・規模】平面形は、直径67cmの円形で深さ47cmを測る。

【堆積】炭化物・焼土粒などを多く含み、人為堆積を呈する。

【新旧関係】堅穴建物跡1に伴う。

【出土遺物】縄文土器、石器が合計41点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

堅穴建物跡2（5、6、9-9～13図、PL6-2、10-2・4、11-2・5・6、14-5～9）

【位置】調査区北東部のA2・A3・B2・B3グリッドに位置する。

【形態・規模】平面形は長軸548cm、短軸358cmの楕円形を呈し、確認面から深さ32cmを測る。

プラン中央のやや南西部分に1辺が約60cmの石組炉が構築されている。貼床は確認されなかつた。

【堆積】固くしまった暗褐色などのシルト質を呈し、炭粒を少量含む。

【新旧関係】堅穴建物跡7・8・9より新しい。Pit29～32、113・114・123・124・142を伴い、Pit33より古い。

【出土遺物】縄文土器、石器、自然遺物が合計1,749点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

堅穴建物跡3（5、6、10-1～2図、PL10-1、11-1、15-1～2）

【位置】調査区南のC1・C2グリッドに位置する。
【形態・規模】平面形の形態・規模は、調査区外延びるため不明であるが、確認面からの深さ49cmを測る。また、調査区外へ延びるため規模は不明であるが、地床炉と思われる焼土範囲が確認されている。貼床は確認されなかった。
【堆積土】褐色・黄褐色の粘土を含み、人為的な堆積を呈する。

【新旧関係】堅穴建物跡4より新しく、堅穴建物跡1より古い。Pit82を伴い、Pit39より新しく、Pit68・75・80より古い。

【出土遺物】縄文土器、石器が合計805点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

堅穴建物跡4 (5、6、10-3～8図、PL10-1、11-1、15-3～8)

【位置】調査区南のB2・C1・C2グリッドに位置する。
【形態・規模】平面形は長軸323cm、短軸314cm、確認面からの深さ25cmを測る。炉跡と思われる焼土範囲は検出されなかった。貼床は確認されなかった。

【堆積土】炭化物、焼土粒を多く含み、人為堆積を呈する。

【新旧関係】堅穴建物跡6より新しく、堅穴建物跡3・溝1より古い。また、Pit2・18・19・70・74・101・102・103・106より古い。

【出土遺物】縄文土器、石器、自然遺物が合計891点出土している。

堅穴建物跡5 (5、6、10～9・10図、PL10-5、15-9・10)

【位置】調査区南西のC1グリッドに位置する。
【形態・規模】平面形は、278cm、212cmの楕円形を呈し、確認面からの深さ22cmを測る。貼床は確認されなかった。

【堆積土】炭化物、焼土粒を多く含み、人為的な堆積を呈する。

【新旧関係】土壤2と同時期か新しいと思われる。Pit36・89は伴い、Pit34・35・90・91は等間隔で並ぶため本遺構に伴う可能性もある。

【出土遺物】縄文土器、石器、自然遺物が合計886点出土している。石質では、75点の石器のうち42点が黒曜石となっており、その割合が高い。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

土壤2 (5、6図、PL10-6～8)

【位置】調査区南西側のC1グリッドに位置する。
【形態・規模】平面形は長軸150cm、短軸78cm、深さ21cmを測る。調査区北西方向に延びる斜面を埋め立てて、平坦地を造成している。平面規模は調査区外へ延びるため不明であるが、調査区内の最深部で約100cmを測る。

【堆積土】炭化物、焼土粒、被熱を受けた獸骨を多く含み、人為堆積を呈する。

【新旧関係】堅穴建物跡底面にて確認し、堅穴建物跡5に伴うか、もしくは古いと思われる。

【出土遺物】縄文土器、石器、自然遺物が合計166点出土している。自然遺物は、いずれも被熱を受けた陸獸骨の骨片85点である。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

堅穴建物跡6 (5、10-11図、PL7-1、15-1)

【位置】調査区中央やや西のB1・2グリッドに位置する。

【形態・規模】平面形は長軸394cm、短軸273cmの不整楕円形を呈し、深さ45cmを測る。プラン中央やや西側部分で地床炉と思われる不整円形の被熱面が確認された。貼床は確認されなかった。
【堆積土】上面を擾乱によって削平され、黒褐色のシルト質を呈する。

【新旧関係】堅穴建物跡4より古い。Pit44～47・98を伴う。

【出土遺物】縄文土器、石器、自然遺物が合計204点出土している。自然遺物は、大型陸獸と思われる動物骨片を含み、いずれも被熱を受けている。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

堅穴建物跡7 (5、6図、PL10-3、11-2、12-1、15-2・3)

【位置】調査区中央やや東のB2・B3グリッドに位置する。

【形態・規模】平面形は不整円形を呈し、長軸が切り合いのため不明である。短軸は374cm、深さ34cmを測る。炉跡及び貼床は確認されなかった。

【堆積土】黄褐色土等のシルトが多く混じる。

【新旧関係】堅穴建物跡2より古い。Pit24～28・52・53・67・110・112を伴う。また、Pit20・22・23・54・110は等間隔で本遺構縁辺

にみられるため、伴う可能性が高い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物、土製品、の合計724点が出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

竪穴建物跡8（5、6、11図、PL12-2～4）

〔位置〕 調査区北のA1・A2・B2グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は長軸を北北西に取り、短軸494cmの隅丸方形を呈し、深さ38～48cmを測る。地床炉と思われる不整円形の焼土範囲を確認し、調査では判別がつかなかったものの新旧関係をもつ2つの焼土範囲の可能性が考えられる。また、焼土範囲より胴部が幅3～5cmのみ埋設された土器が確認された。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 黒褐色土が多くみられる。

〔新旧関係〕 竪穴建物跡2より古い。Pit59～61・64～66・124・127・132・136～140を伴い、Pit62・63・73・116・117・131より古い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物の合計1,997点が出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

竪穴建物跡9（5、6、12-1～3図、PL12-5）

〔位置〕 調査区北東側のA3グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は調査区外に延びるために不明であるが、確認面からの深さで18cmを測る。地床炉と思われる直径約40cmの焼土範囲が確認された。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 暗褐色土を呈し、炭・焼土粒が混入する。

〔新旧関係〕 竪穴建物跡2より古い。Pit118を伴う。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器が合計29点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

土壤3（5、6、12-4～6図、PL12-6・7・8）

〔位置〕 調査区西側のB1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は調査区外へ延びるため、詳細が不明であるが、直径約150cmの不整円形を呈し、深さ32cmを測る。また、長軸95cm、短軸42cmの不整梢円形の焼土範囲が確認された。

〔堆積土〕 黒褐色土を呈し、炭粒・焼土粒などが混入する。

〔新旧関係〕 Pit48・49・92より古い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物の合計

560点が出土している。石器は、土壤底面付近でフレイクが集中して確認されている。これらは、接合関係を精査できていないが、ほぼ一つの石核になることが想定され、本遺構が石器製作場としての可能性も考えられた。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

溝1（5図）

〔位置〕 調査区中央より南東側のB2・C2グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 北東方向へ延び、長軸は切り合っているため不明で短軸は89cm、深さ20cmを測る。〔堆積土〕 暗褐色のシルトを呈し、炭粒を少量含む。

〔新旧関係〕 竪穴建物跡4より新しく、Pit20・110より古い。

〔出土遺物〕 なし

畝状遺構（4図、PL9-2・3）

〔位置〕 近現代及び近世の畝状遺構が検出されている。近現代の畝状遺構はA1・A2・B1・B2グリッドを中心として分布している。近世の畝状遺構は、ほぼA1・A2グリッドを除いて検出されている。

〔形態・規模〕 近現代の畝状遺構は、北北西に延び、長軸350～530cm、短軸50～60cm、深さ5～10cmを測る。近世の畝状遺構は、東西方向に延び、長軸520～870cm、短軸30～40cm、深さ5～10cmを測る。

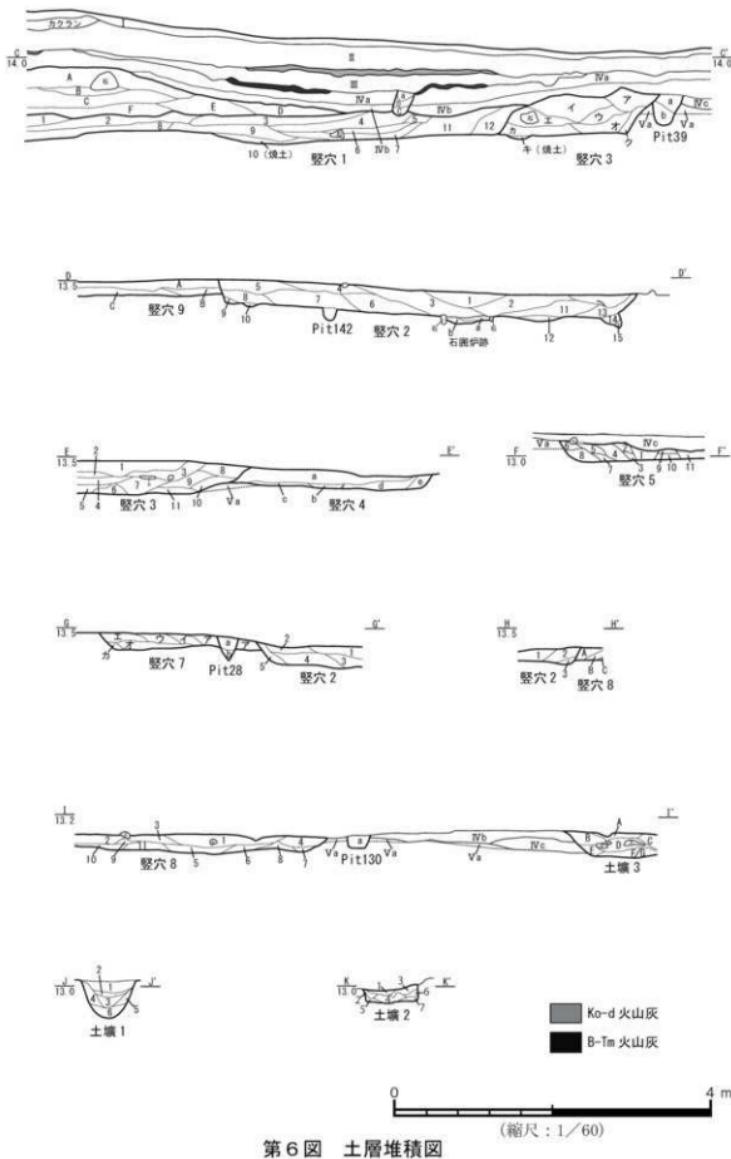
〔堆積土〕 近現代の畝状遺構は、ロームブロック・炭化物などが混入している。近世の畝状遺構では、暗褐色のシルト～砂質土がみられ、2次堆積のKo-d火山灰ブロックが混入している。

〔新旧関係〕 近世の畝状遺構は、Ko-d火山灰層（1640年降下）を壊して作られるため、それより新しい。

〔出土遺物〕 近世の畝状遺構からは、縄文土器、石器の合計503点が混入している。



第5図 遺構配置図・土層堆積図



第6図 土層堆積図

表3 整穴植物數1:3 主要觀察處 (n=6)

表4 穴建物跡2 土層觀察表 (D~D')

留置場	登録番号	品種名	シルク	ハーフ	ホジロ
1	10YR3/3	暗褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
2	10YR3/3	暗褐色	シルク	ややハーフ	ホジロ
3	10YR3/3	暗褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
4	10YR3/3	暗褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
5	10YR3/2	黒褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
6	10YR3/4	暗褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
7	10YR4/4	暗褐色	シルク	ややハーフ	ホジロ
8	10YR5/2	黒褐色	シルク	ややハーフ	ホジロ
9	10YR3/3	暗褐色	シルク	ややハーフ	ホジロ
	10YR3/3	暗褐色	シルク	ややハーフ	ホジロ
11	10YR4/3	にじみ 黄褐色	シルク	ややハーフ	ホジロ
12	10YR4/3	にじみ 黄褐色	シルク	ややハーフ	ホジロ
13	10YR2/2	黒褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
14	10YR2/2	黒褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
15	10YR2/2	黒褐色	シルク	ハーフ	ホジロ
右側	b	10YR2/2	黒褐色	シルク	ややハーフ
b	10YR2/2	黒褐色	シルク	ややハーフ	
壁上2	A	10YR2/1	黒色	シルク	ややハーフ
B	10YR3/3	暗褐色	シルク	ややハーフ	
C	10YR3/3	暗褐色	シルク	ややハーフ	
P14+2	V3	10YR3/3	暗褐色	シルク	ややハーフ
					斑・斑土 小%
					斑・斑土 中%
					斑・斑土 大%

表5 脊穴建筑物3-4 土層觀察表 (E~E')

第5回	1	10Y95/3	シルク・黒褐色	シルク・ややハード	脚部小%
	2	10Y95/2	黒褐色	シルク・ややハード	脚部小%
	3	10Y95/4	シルク・黒褐色	シルク・ハード	脚部小%
	4	10Y95/4	シルク・黒褐色	粘土・ハード	脚部小%
	5	10Y95/2	黒褐色	シルク・ややハード	脚部小%
	6	10Y95/4	シルク・黒褐色	粘土・ややハード	脚部小%
	7	10Y95/4	シルク・黒褐色	シルク・ハード	脚部小%
	8	10Y95/3	シルク・黒褐色	シルク・ハード	脚部小%
	9	10Y95/4	黒褐色	粘土・ハード	脚部小%
	10	10Y95/2	シルク・黒褐色	シルク・ややハード	脚部小%
第6回	a	10Y95/2	黒褐色	シルク・ややハード	脚部小%
	b	10Y95/2	黒褐色	シルク・ややハード	脚部小%
	c	10Y95/2	黒褐色	シルク・ややハード	脚・ヒール部小%
	d	10Y95/2	黒褐色	シルク・ハード	脚部小%
	e	10Y95/2	黒褐色	シルク・ハード	脚部小%
Vg		10Y95/6	黒褐色	粘土・ややハード	

四、整穴植物群落主要特征 (E-E')

表7 聖穴建物跡2-7 土層觀察表 (G~G')

翌付6	1	10Y9M/3	にじく 黄褐色	シルク ハード	
	2	10Y9M/3	にじく 黄褐色	シルク ハード	黒土粒 小-5%
	3	10Y9M/3	にじく 黄褐色	シルク ハード	
	4	10Y9M/3	にじく 黄褐色	シルク ソフト-HARD	黒-土粒 小-5%
	5	10Y9M/2	黒褐色	シルク ハード	
翌付7	ア	10Y9M/3	にじく 黄褐色	シルク ハード	
	イ	10Y9M/4	にじく 黄褐色	シルク ハード	
	ウ	10Y9M/3	暗褐色	シルク ソフト-HARD	
	エ	10Y9M/3	暗褐色	シルク ソフト-HARD	黒土粒 小-5%
	オ	10Y9M/4	暗褐色	シルク ソフト-HARD	黒土粒 小-5%
Pz付8	カ	10Y9M/4	暗褐色	シルク ソフト-HARD	黒-土粒 小-5%
	メ	10Y9M/2	黒褐色	シルク ソフト-HARD	
	ハ	10Y9M/2	黒褐色	シルク ハード	
	ヤ	10Y9M/4	褐色	シルク ソフト-HARD	黒土粒 小-5%

表8 整六建物跡2-8 土層觀察表 (H~)

堅穴2	I 2 3	10% 2/2 10% 2/2 10% 2/2	黒褐色 黒褐色 黒褐色	シルト や砂ハード シルト や砂ハード シルト や砂ハード	草相少量 草相多量 草相多量
堅穴3	A	10% 3/2	黒褐色	シルト や砂ハード	
	B	10% 3/2	黒褐色	シルト や砂ハード	
	C	10% 3/2	黒褐色	シルト や砂ハード	

表2. 鋼空建物跡2: 土塹1 土壓測量表 (J~D)

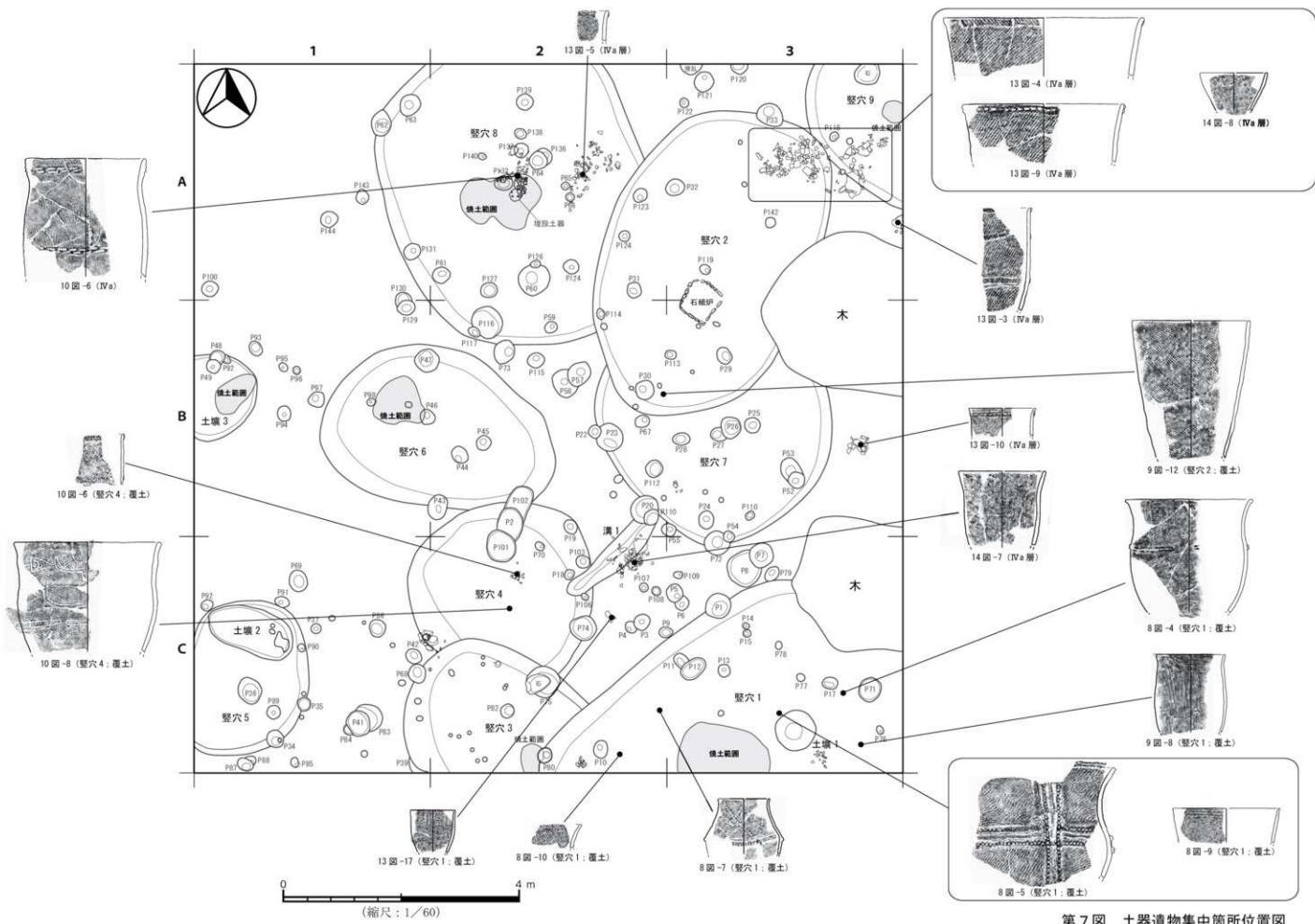
翌日付		前日付		前々日付		前々々日付		前々々々日付		前々々々々日付	
1	10/9/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
2	10/9/1	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
3	10/8/3	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
4	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
5	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
6	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
7	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
8	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
9	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
10	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
11	10/8/2	■黒褐色	■シルク	■ハード						■黒褐色	■ハード
■土壌	a	10/9/2	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	B	10/9/1	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	C	10/9/1	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	D	10/9/1	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	E	10/9/2	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	F	10/9/2	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	G	10/9/2	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	H's	10/9/2	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	H'v	10/9/2	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード
	V	10/9/6	■黒褐色	■シルク	■ハード					■黒褐色	■ハード

表10 駿穴建物跡1・土壤1 土層観察表 (J~J)

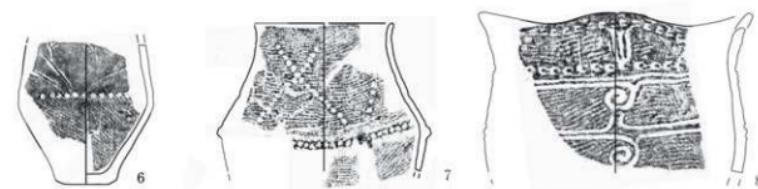
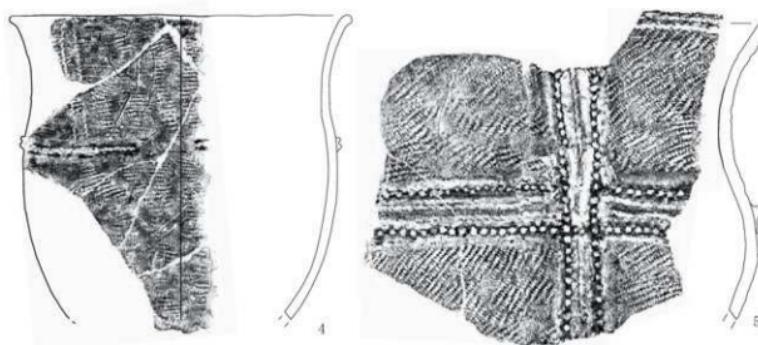
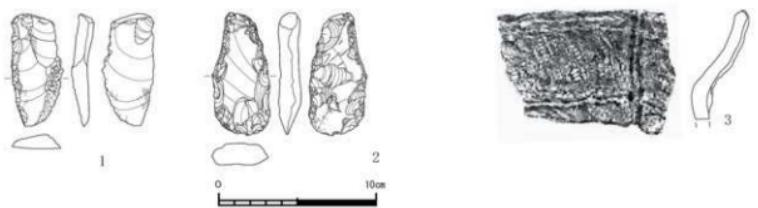
土壤1	1	10%3/3	暗褐色	シルト ややソフト	灰-黒土粒中10%
	2	10%3/3	暗褐色	シルト ややソフト	
	3	10%3/3	暗褐色	シルト ややハード	灰-黒土粒少5%
	4	10%2/3	暗褐色	シルト ややハード	
	5	10%2/3	暗褐色	シルト ややハード	
	6	10%2/3	暗褐色	シルト ややソフト	

表11 土壤2 土壤試驗表 ($K \approx K'$)

上塗り		下塗り	主成分	色
1	10Y9/2	黒褐色	シリコ	ヤマソロ
2	10Y8/4	褐色	シリコ	ヤマソロ
3	10Y9/2	黒褐色	シリコ	ヤマソロ
4	10Y8/3	[にじ] 黒褐色	シリコ	ヤマソロ
5	10Y8/3	[にじ] 黒褐色	シリコ	ヤマハード
6	10Y9/2	黒褐色	シリコ	ヤマハード
7	10Y9/2	黒褐色	シリコ	ヤマハード

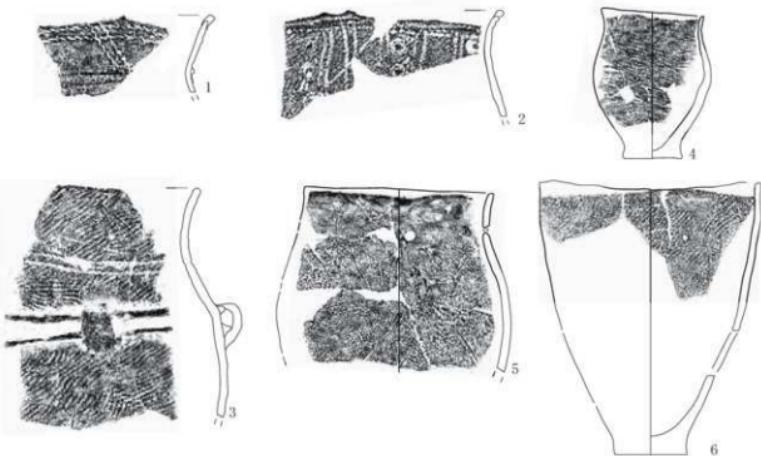


第7図 土器遺物集中箇所位置図

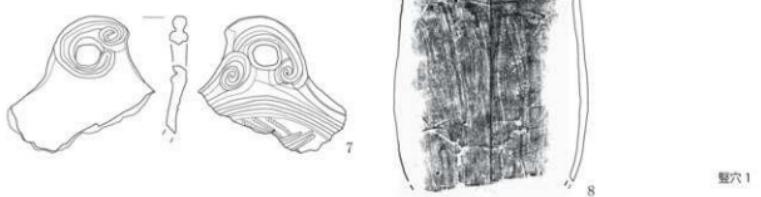


0 10cm

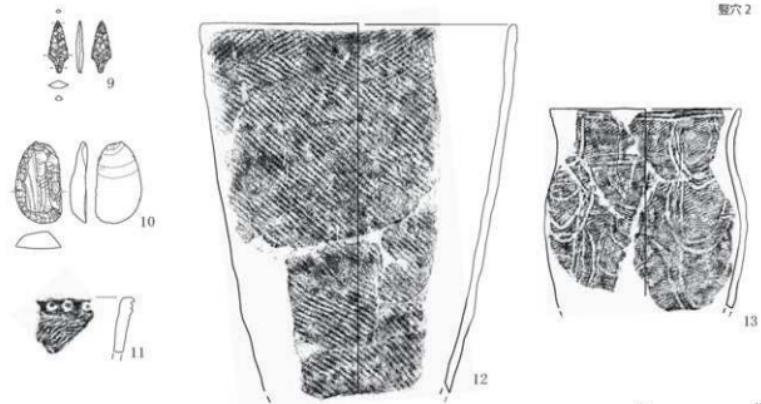
第8図 積穴建物跡1 出土遺物



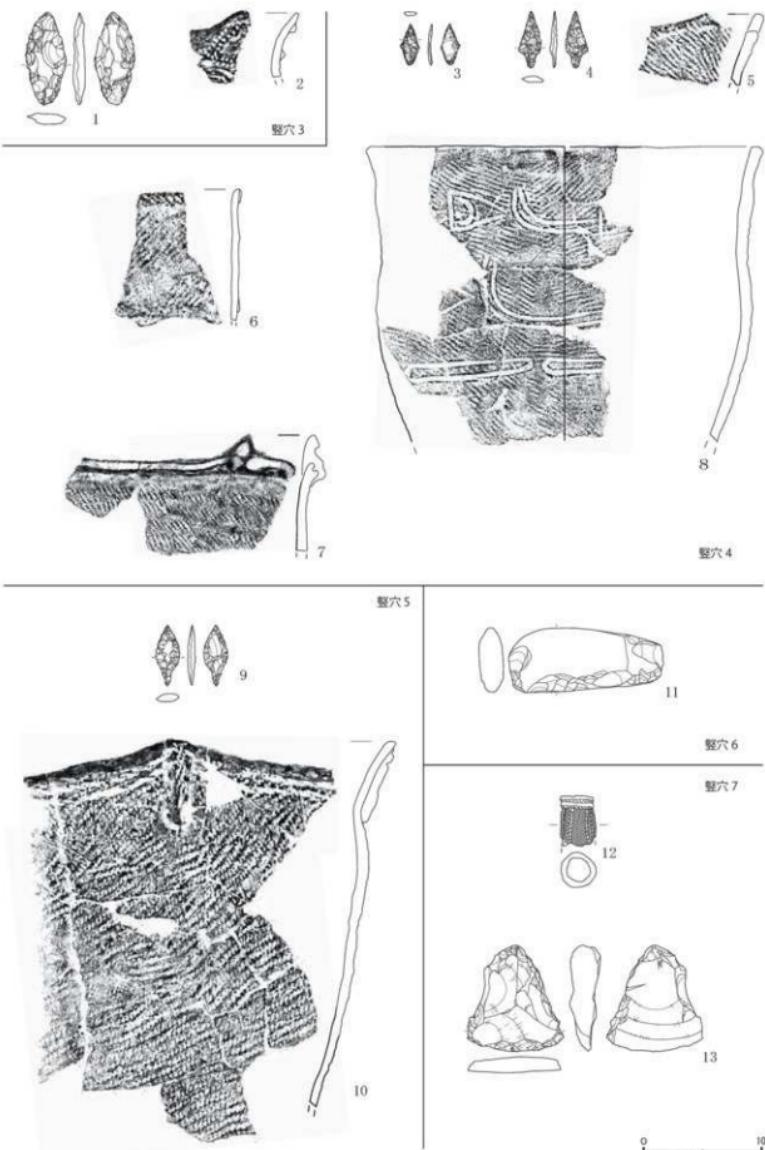
竪穴 1



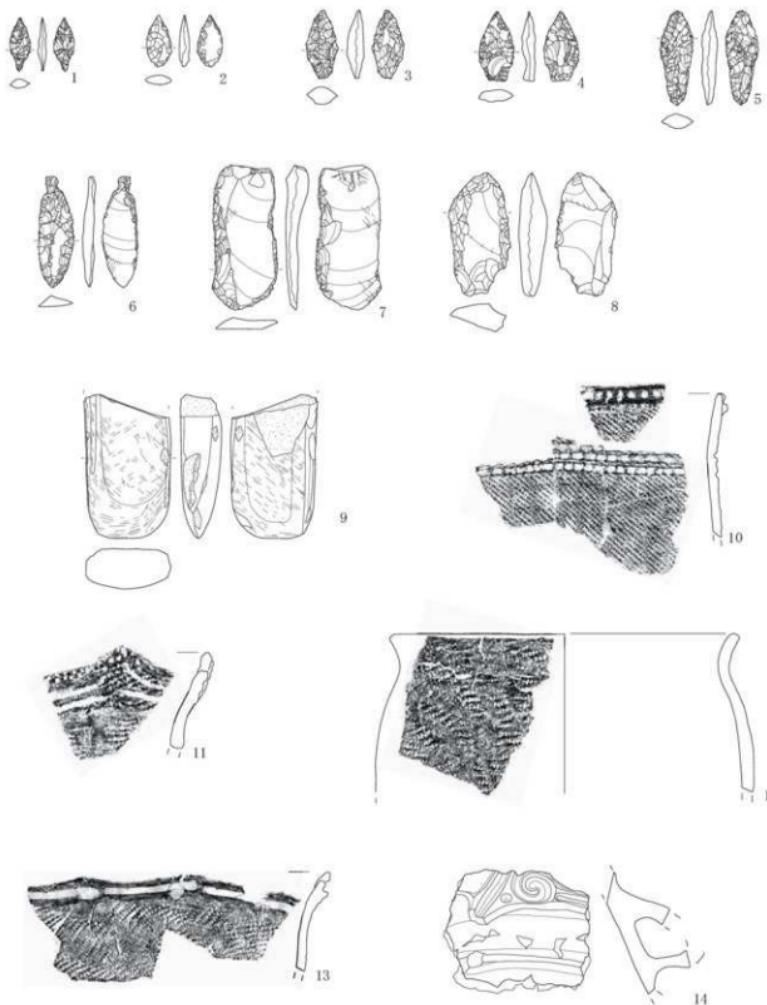
竪穴 2



第9図 竪穴建物跡1・2 出土遺物



第10図 竪穴建物跡3~7 出土遺物



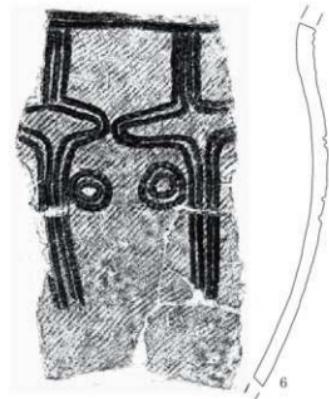
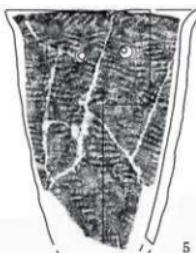
第11図 竪穴建物跡8 出土遺物

0 10mm



堅穴 9

土壤 3



0 10cm

第 12 図 堅穴建物跡 9・土壤 3 出土遺物

III 遺構外出土遺物

1. 繩文土器 (13 ~ 17図、PL18 ~ 22)

繩文土器は、38,589点のうち、繩文時代の包含層であるIVa ~ IVc層から22,044点が出土している。

・ I群b類

繩文時代早期後半の土器である。出土破片数26点と全体の約2.4%となり、少量の出土である。

口縁部に文様帶をもつものや斜行繩文施文後、綾格文が施されるものなどがある。口縁端部及び内面にも繩文を施すものが確認される。松前町の高野遺跡で同様の形式のものが出土し早稲田5類に類似する繩文平底系の土器として、第IV群土器と分類されている（松前町郷土1984）。

・ III群a類

円筒上層式に相当、もしくはその系統を引くと考えられるサイベ沢VII式、見晴町式の土器群である。出土破片数は、32点と破片数で全体の約2.2%の比率を示し、少量の出土である。

層位毎の出土比率は、IVa層1.23%、IVb層2.60%、IVc層5.28%とIVc層からIVb層へかけて減少傾向にある。

・ III群b-1類～IV群a類

本類の中期後葉～後期初頭に相当する土器については、本遺跡で最も多い時期に該当するがいざれの型式に当てはまるか判断に迷うものが少なくないため、施文の手法によって分類している。

A. 貼付帯のあるグループ（13図-2 ~ 12、15図-4 ~ 11、17図-3 ~ 6）

口縁部を主体にして粘土紐もしくは折返して貼付を行い、貼付帯を施すもの。貼付帯の付される部位、貼付帯上に付される施文の手法によってさらに分類を試みている。

層位毎の出土比率は、IVa層24.37%、IVb層22.26%、IVc層8.58%とIVc層からIVb層で比率が大きく増加する。

A1) 貼付帯上に繩文を施すもの（13図-2 ~ 6）

繩文の施した貼付帯を特徴とするものである。大半が粘土紐を貼付けた後に施文をし、体部に施文した繩文の回転した方向を変えているが、まれに同一方向のものも確認され

る。口縁の断面形態は、口縁端部がほぼ水平に板状の當て具のようなもので直線的に成形され、方形をしている。

A2) 貼付帯上に繩線文を施すもの（13図-8、17図-4、）

口縁部や胴部に貼付帯をもち、貼付帯に繩線文を施すもの。

A3) 貼付帯上に短刻文を施すもの（13図-9・10、15図-7）

貼付帯上に繩文を施し、押し引き気味に刺突（以下短刻文）を施すもの。

A4) 貼付帯上に刺突文を施すもの（13図-11・12、15図-8 ~ 11、17図-5・6）

A5) 貼付帯上に沈線を施すもの

B. 刺突文を特徴とするもの（13図-13・14、15図-12 ~ 14、17図-7・8）

器面に竹管様の工具及び半竹管様の工具を使用した連続する刺突文で文様を構成するものである。

層位毎の出土比率は、IVa層3.11%、IVb層3.28%、IVc層2.42%とIVc層からIVa層へかけてほぼ同一の比率を示す。

B1) 口縁部下の器面に水平に刺突を施すもの。

B2) 口唇に刺突文を施すもの。

B3) 刺突文の他、沈線文を伴うもの。

B4) 刺突文の他、繩線文を伴うもの。

C. 繩線文を特徴とするもの（13図-15 ~ 17、14図-1・2、15図-15 ~ 20、17図-9）

大安在B式に相当するものを多く含む。層位毎の出土比率は、IVa層14.95%、IVb層18.95%、IVc層9.31%とIVc層からIVb層へかけて大きく増加し、IVb層で一番高い比率を示す。

C1) 口縁下に水平に繩線文を1 ~ 3条施すもの。

C2) 水平の他、縦位に繩線文を施すもの。

C3) 口縁下に水平に繩線文を1 ~ 3条施し、外反するもの。

C4) 水平の繩線文の他、縦位に短刻文を施すもの。

C5) 突起口縁で瘤状の貼付をもつもの。

C6) 口唇に繩線文を施すもの。

D. 短刻文を特徴とするもの（14図-3・4、16図

-1 ~ 7)

ノダップII・煉瓦台式のものを多く含む。層位毎の出土比率は、IVa層7.47%、IVb層5.29%、IVc層5.94%とIVa層で若干高い比率を示す。

- D1) 口縁部に横位に施すもの。
- D2) 矩刻文の両側に縄線文を伴うもの。
- D3) 両側に沈線文を伴うもの。
- D4) 縄文の短刻文を施すもの。
- D5) 口唇に矩刻文を施すもの。

E. 縄文のみを特徴とするもの（14図-5 ~ 11、16図-28 ~ 33、17図-12）

層位毎の出土比率は、IVa層38.26%、IVb層31.94%、IVc層34.16%とIVa ~ IVc層でほぼ同様の比率を示す。

- E1) 口縁端部を面取りして断面が四角形のもの。
- E2) 面取りせず、断面系が半円形のもの。
- E3) 外反するもの。
- E4) 波状口縁のもの。
- E5) コブ状の貼付をもつもの。
- E6) 撫糸文を施すもの。
- E7) 網目状撫糸文を施すもの。

F. 無文を特徴とするもの（14図-12 ~ 14、16図-15、17図-13 ~ 14）

層位毎の出土比率は、IVa層7.68%、IVb層5.07%、IVc層5.21%とIVa層で若干高い比率を示す。

- F1) 平縁のもの。
- F2) 外反するもの。
- F3) 胴部上部が無文のもの。大木系土器の中の平III式に併行するものか。
- F4) 折返し口縁のもの。
- F5) 波状・突起口縁のもの。
- F6) 貼付帶をもつもの。

G. 沈線文を特徴とするもの（14図-15 ~ 17、16図-16 ~ 22、17 図-15 ~ 20）

層位毎の出土比率は、IVa層2.59%、IVb層7.92%、IVc層22.58%とIVc層で高い比率を示す。大木系土器の影響を受けている大木系土器を多く含む。

- G1) 口縁下に水平方向の沈線文を施すもの
- G2) 口唇に縄線・縄文を施すもの
- G3) 平縁・突起口縁をもち、曲線の沈線を施すもの。大木系土器の中の平II及びIII式相当のものを含む。

H4) 口唇に沈線を施すもの。大木系土器の楕円

I・II式に相当するものを含む。

G5) 鰐歯文をもつもの

H. 条線他を特徴とするもの（16図-23・24、17図-21・22）

層位毎の出土比率は、IVa層0.10%、IVb層0.87%、IVc層0.29%といずれも低い比率を示す。

H1) 平縁のもの。

H2) 突起口縁をもつもの。

H3) 口唇にキザミを施すもの。

2. 石器

IVa ~ IVc層より1,805点が出土している。剥片石器では、搔器・削器のスクレイバー、石鑿、石槍、つまみ付ナイフ（縦型）が出土している。

礫石器では、すり石、扁平打製石器、磨製石斧他が出土している。石質は、頁岩を主体とし、黒曜石が218点と全体約12.1%の割合を占める。

また、IV章に掲載した黒曜石の螢光X線による分析では任意に選び出した29点のうち、白滻産が2点、赤井川産が27点という結果を得ている。

3. 土製品（14図-18）

穿孔を有する突起がみられ、直径6.4cmの小型の蓋と思われる。

4. 石製品

IVb層から人工的に穿孔した用途不明の製品である。

5. 自然遺物

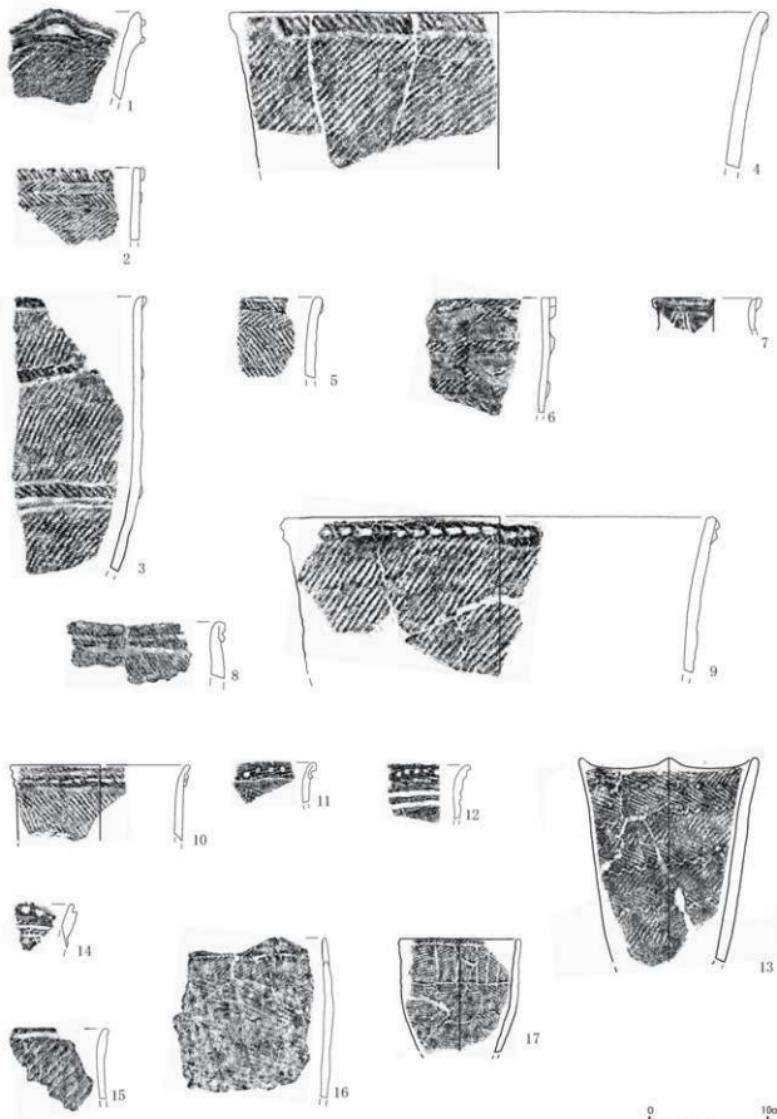
本調査で出土した自然遺物は、動物遺体で総点数337点が確認されている。これらは、IVc層を中心に164点出土しており、すべて被熱を受けている。遺構外の動物遺体は、13点について同定を行つており、大型の陸獣の破片などが確認されている。

同定結果の詳細については、IV章自然科学分析の記述を参照されたい。

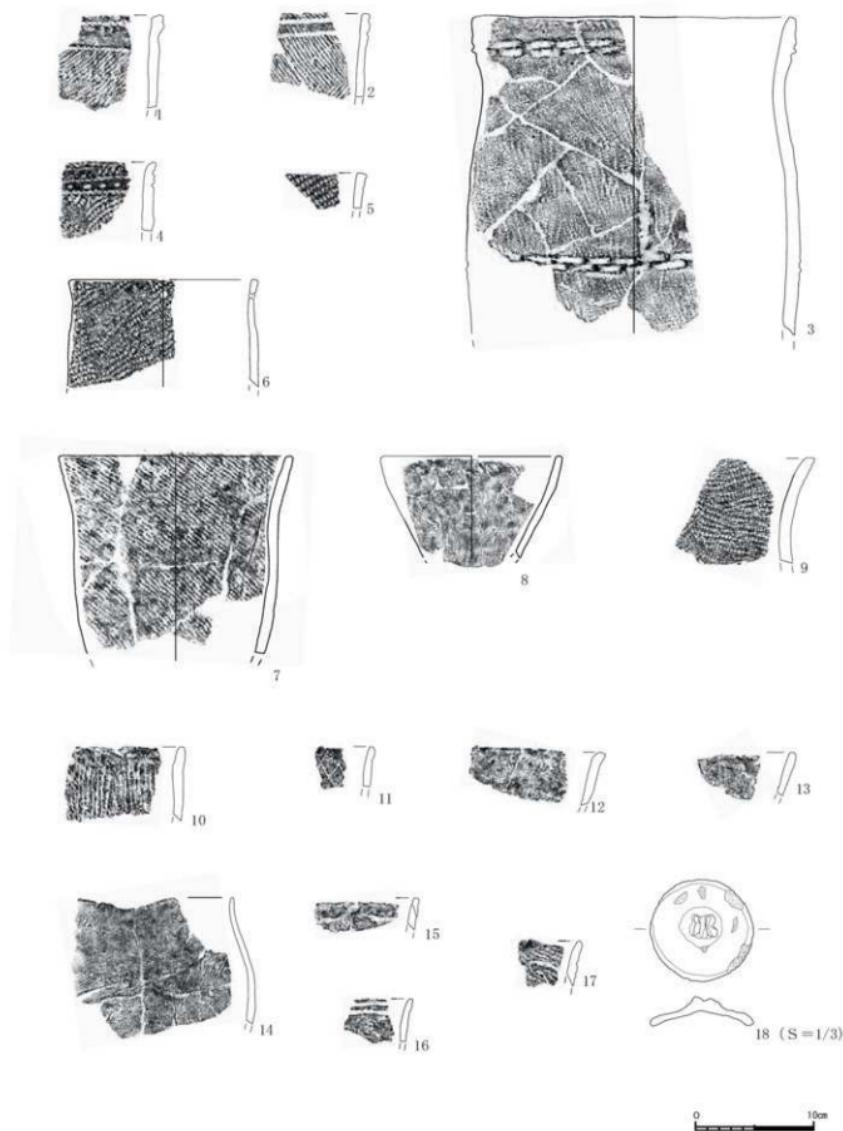
6. 江戸時代の出土遺物

江戸時代の遺物は図示していないが、陶磁器では肥前系磁器のIV期（1690 ~ 1780年代）に相当する見込みに松竹梅文を環状に描く磁器碗や19世紀～幕末頃の紅皿などの肥前系磁器が出土している（九州陶磁研究会2000）。鉄製品では、平釘などが出土している。

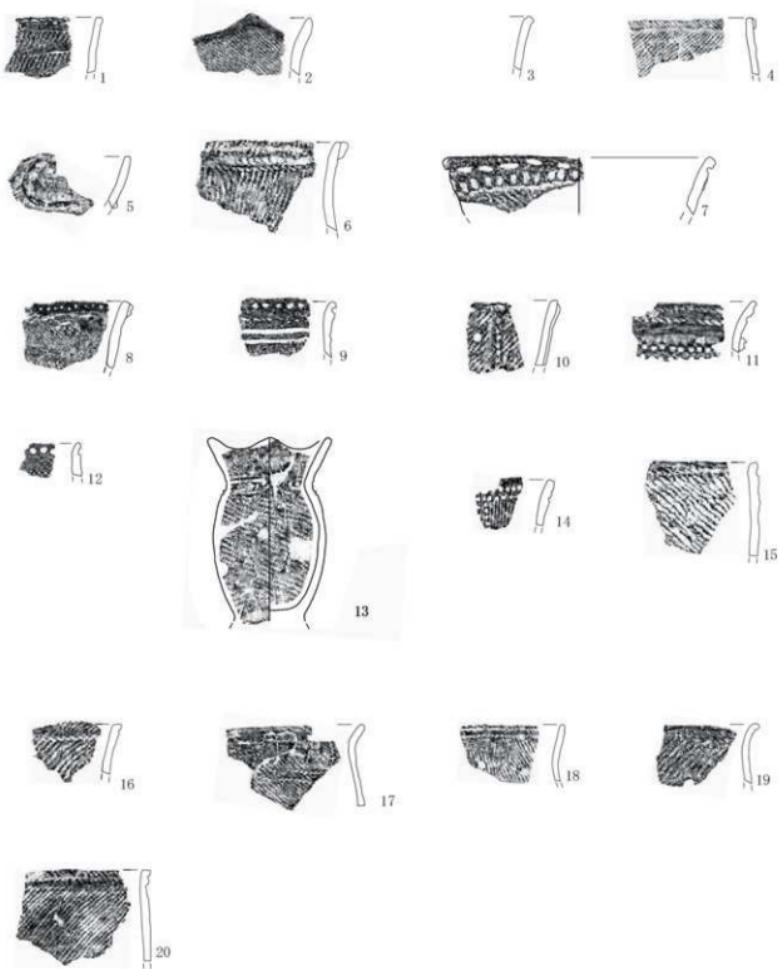
銅製品は、新寛永に分類される寛永通寶（3期）が出土している（永井1998）。



第13図 IVa層 出土遺物 1

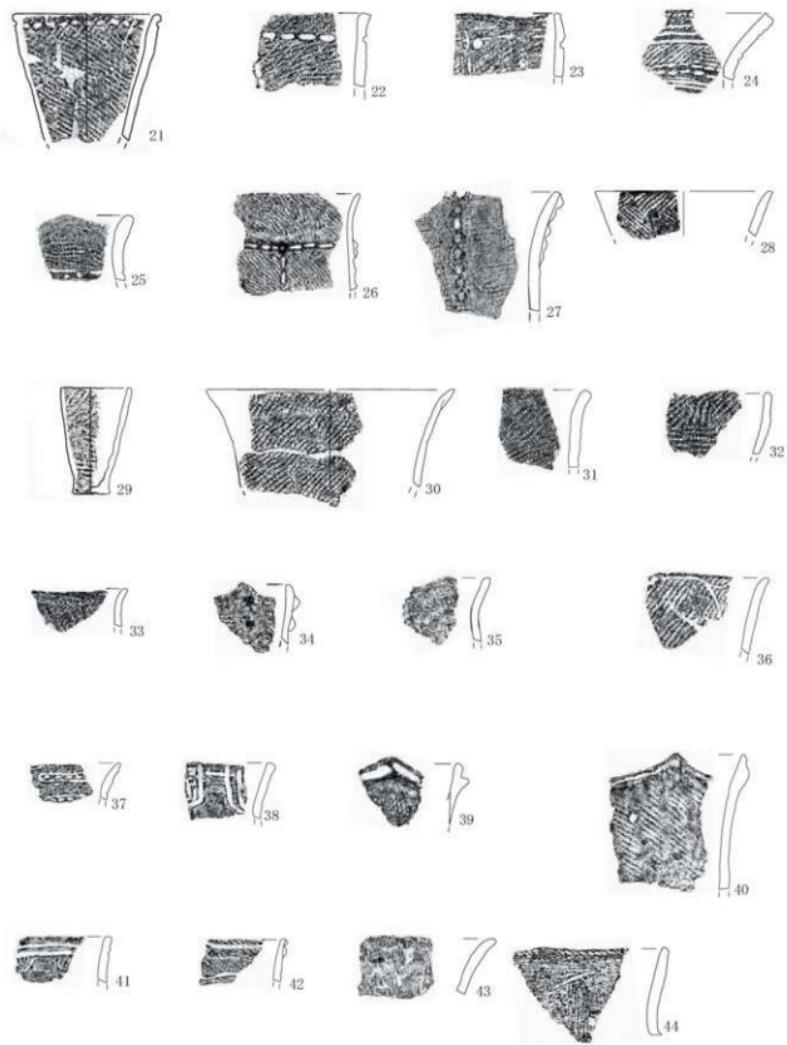


第14図 IVa層 出土遺物2



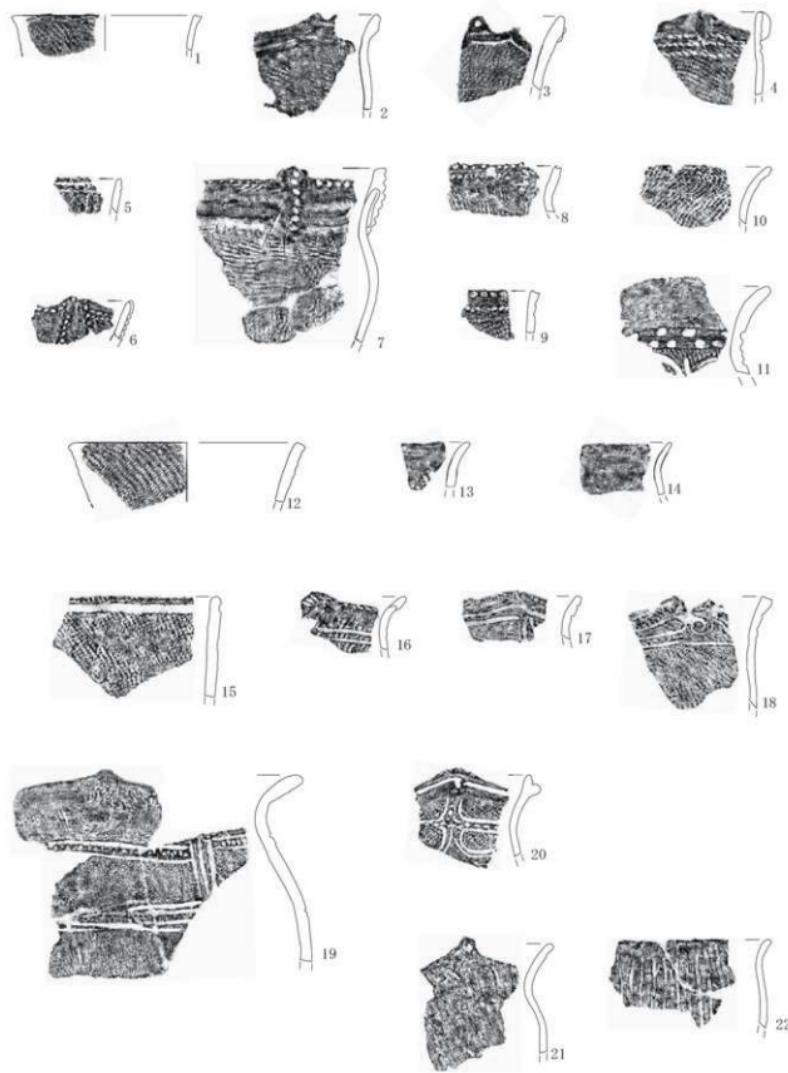
0 10cm

第 15 図 IVb 層 出土遺物 1



第16図 IVb層 出土遺物2

0 10cm



第 17 図 IVc 層 出土遺物

表12 大岱遺跡 出土遺物觀察表

図版No.	PLNo.	グリッド	遺構	層位	種類	器理	備考	整理 No.
3[6]-1	PL17-7	T9E	IV	陶文土器鉢	IV群a-1類(A1)		11C54BTIV-131	
3[6]-2	PL17-8	T9E	IV	陶文土器鉢	IV群b-3類(C1)		11C54BTIV-158	
3[6]-3	PL17-9	T9E	IV	陶文土器鉢	IV群b-3類(D4) 口徑33.2cm		11C54BTIV-180	
3[6]-4	PL17-10	T9E	IV	陶文土器鉢	IV群b-3類(G3) 大木10式の影響を受けた大木系土器に併行。		11C54BTIV-119	
3[6]-5	PL17-11	T9E	IV	陶文土器鉢	IV群b-2類～IV群e-1類(II)		11C54BTIV-58	
8[6]-1	PL13-1	C3	堅穴	陶片石器	スクリーパー 直径:長57.1×幅3.3×厚51.0cm		12K54C3テ穴-134	
8[6]-2	PL13-2	C3	堅穴	陶片石器	スクリーパー 直径:長57.1×幅3.6×厚51.2cm		12K54C3テ穴-1448	
8[6]-3	PL13-3	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(A2)		12K54C3テ穴-1449	
8[6]-4	PL13-4	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(A2) 口徑29.0cm		12K54C3テ穴-1818	
8[6]-5	PL13-5	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(A4-3)		12K54C3テ穴-1738	
8[6]-6	PL13-6	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(B1)		12K54C3テ穴-2202	
8[6]-7	PL13-7	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(B2) 口徑11.6cm		12K54C3テ穴-2318	
8[6]-8	PL13-8	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(B3) 中の平II式併行。 口徑17.5cm		12K54C3テ穴-635	
8[6]-9	PL13-9	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(C1) 口徑18.3cm		12K54C3テ穴-1761	
8[6]-10	PL13-10	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(C1)		12K54C3テ穴-765	
9[6]-1	PL13-11	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(C2) 中の平II式併行。		12K54C3テ穴-2670	
9[6]-2	PL13-12	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(C3) 中の平II式併行。		12K54C3テ穴-1473	
9[6]-3	PL13-13	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(C3) 中の平II式併行。		12K54C3テ穴-1813	
9[6]-4	PL13-14	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(E1) 口徑3.7×器高12.1～12.8cm×底径4.9cm 口 縁帶無文、中の平III式併行。		12K54C3テ穴-1593	
9[6]-5	PL14-1	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(E2) 口徑16.2cm 口縁無文。中の平III式に併行。		12K54C3テ穴-1374	
9[6]-6	PL14-2	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(E3) 口徑1.6cm×1.4cm		12K54C3テ穴-2024	
9[6]-7	PL14-3	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-1類(G3) 横林I式併行。		12K54C3テ穴-637	
9[6]-8	PL14-4	C3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(V群-1類(H1)) 口徑15.6cm		12K54C3テ穴-1775	
9[6]-9	PL14-5	A3	堅穴	陶面	有茎 貝岩 長53.4×幅1.2×厚50.4cm		12K54M3テ穴-1219	
9[6]-10	PL14-6	B2	堅穴	陶片石器	貝岩 長51.1×幅2.2×厚51.1cm		12K5HEテ穴-1485	
9[6]-11	PL14-7	A3	堅穴	陶面	IV群b-2類(G1)		12K54M3テ穴-1101	
9[6]-12	PL14-8	B2+B3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(A1)～IV群b-1類(F2) 口徑26.6cm		12K5HE2-3テ穴-2-1624	
9[6]-13	PL14-9	B2	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(G3) 口徑15.7cm		12K5HEテ穴-45	
10[6]-1	PL15-1	C2	堅穴	陶片石器	貝岩 長53.9×幅1.2×厚50.5cm		12K5Hテ穴-30	
10[6]-2	PL15-2	C2	堅穴	陶片石器	貝岩 長53.7×幅1.2×厚50.5cm		12K5Hテ穴-73	
10[6]-3	PL15-3	C2	堅穴	陶片石器	貝岩 長53.7×幅1.2×厚50.2cm		12K5Hテ穴-149	
10[6]-4	PL15-4	C2	堅穴	陶片石器	貝岩 長53.3×幅1.4×厚50.3cm		12K5Hテ穴-1411	
10[6]-5	PL15-5	C2	堅穴	陶片石器	IV群b-1類(G1)		12K5Hテ穴-100	
10[6]-6	PL15-6	C2	堅穴	陶片石器	IV群b-1類(A1)		12K5Hテ穴-687	
10[6]-7	PL15-7	C2	堅穴	陶片石器	IV群b-1類(G3) 横林II式併行。		12K5Hテ穴-4-699	
10[6]-8	PL15-8	C2	堅穴	陶片石器	IV群b-2類(G4) 口徑37.8cm		12K5Hテ穴-656	
10[6]-9	PL15-9	C1	堅穴	陶片石器	有茎 貝岩 長53.9×幅1.6×厚50.4cm		12K5Hテ穴-890	
10[6]-10	PL15-10	C1	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-2類(A2) 口徑29.4cm		12K5Hテ穴-967	
10[6]-11	PL16-1	E2	堅穴	陶片石器	扁平打製石器 安山岩 層長39.7×幅63.8×厚5.1cm		12K5HBテ穴-678	
10[6]-12	PL16-2	E2	堅穴	陶片石器	貝岩 長56.7×幅6.4×厚51.5cm		12K5HBテ穴-481	
10[6]-13	PL16-3	E3	堅穴	陶土製品	扁平打製石器		12K5HBテ穴-231	
11[6]-1	PL16-4	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長53.3×幅1.2×厚50.5cm		12K5A4テ穴-407	
11[6]-2	PL16-5	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長53.1×幅1.5×厚50.6cm		12K5A4テ穴-1723	
11[6]-3	PL16-6	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長54.2×幅1.9×厚51.0cm		12K5A4テ穴-1376	
11[6]-4	PL16-7	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長54.3×幅2.2×厚50.8cm		12K5A4テ穴-1724	
11[6]-5	PL16-8	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長55.9×幅1.9×厚50.9cm		12K5ANテ穴-1375	
11[6]-6	PL16-9	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長56.8×幅1.1×厚50.6cm		12K5ANテ穴-556	
11[6]-7	PL16-10	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長55.9×幅1.9×厚51.2cm		12K5ANテ穴-551	
11[6]-8	PL16-11	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長57.1×幅3.6×厚51.4cm		12K5ANテ穴-1374	
11[6]-9	PL16-12	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長57.1×幅3.6×厚51.4cm		12K5ANテ穴-1370	
11[6]-10	PL16-13	A2	堅穴	陶片石器	貝岩 長57.1×幅3.6×厚52.3cm		12K5ANテ穴-1371他	
11[6]-11	PL16-14	A2	堅穴	陶片石器	IV群b-3類(A1)		12K5ANテ穴-651	
11[6]-12	PL16-15	A2	堅穴	陶片石器	IV群b-3類(A2)		12K5ANテ穴-256他	
11[6]-13	PL16-16	A1+A2	堅穴	陶片石器	IV群b-3類(A3)		12K5ANテ穴-154他	
11[6]-14	PL16-17	A1	堅穴	陶片石器	IV群b-1類(G4) 横林II式相当		12K5A1テ穴-822他	
12[6]-1	PL17-1	A3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-1類(G1)		12K5A3テ穴-24	
12[6]-2	PL17-2	A3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-1類(G2)		12K5A3テ穴-19	
12[6]-3	PL17-3	A3	堅穴	陶文土器鉢	IV群b-1類(D4)		12K5A3テ穴-17	
12[6]-4	PL17-4	A1	上罐	陶文土器鉢	IV群b-1類(A1) 天祐寺式併行。		12K5H1テ-1罐310他	
12[6]-5	PL17-5	B1	上罐	陶文土器鉢	IV群b-2類(A1) 天祐寺式併行。		12K5H1テ-1罐3-383他	
12[6]-6	PL17-6	B1	上罐	陶文土器鉢	IV群b-2類(A2)		12K5H1テ-1罐3-305他	
13[6]-1	PL18-1	C1	IVa	陶文土器鉢	IV群b-4類 見附町式併行		12K54C4テ穴-376	
13[6]-2	PL18-2	B3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-1類(A1) 天祐寺式併行。		12K5HB3テ-633	
13[6]-3	PL18-3	C2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-1類(A1) 天祐寺式併行。		12K54C3テ穴-1615	
13[6]-4	PL18-4	B3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-1類(A1) 天祐寺式併行。		12K5AN3テ穴-7715	
13[6]-5	PL18-5	A2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-1類(A1) 天祐寺式併行。		12K5A2Nテ-8562	
13[6]-6	PL18-6	A2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-1類(A1) 天祐寺式併行。		12K5AN2Nテ-3097	
13[6]-7	PL18-7	A2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類～IV群e-1類(A4-1)		12K5AN2Nテ-7457	
13[6]-8	PL18-8	C1	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(A2)		12K54C1テ-5758	
13[6]-9	PL18-9	A3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(A3) 口徑36.7cm		12K5AM3テ-6172他	
13[6]-10	PL18-10	B3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(A3) 口徑15.2cm		12K5BH3テ-541	
13[6]-11	PL18-11	C2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-2類(A4)		12K54C2Nテ-2299	
13[6]-12	PL18-12	A3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-2類(B1)～IV群e-1		12K5AN3Nテ-8657	
13[6]-13	PL18-13	C2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-1類(B1) 口徑15.5cm		12K54C1Nテ-3288	
13[6]-14	PL18-14	B3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(B3)		12K5BH3テ-663	
13[6]-15	PL18-15	B3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(C2)		12K5BH3テ-8364	
13[6]-16	PL18-16	B3	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(C2)		12K54C2Nテ-839	
13[6]-17	PL18-17	C2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(C2) 口徑10.3cm		12K54C2Nテ-9006	
14[6]-1	PL19-1	C2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(C3)		12K54C2Nテ-8464他	
14[6]-2	PL19-2	C1	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(C4)		12K54C1Nテ-9006	
14[6]-3	PL19-3	A2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(D1) 口徑27.3cm		12K5A2Nテ-8464他	
14[6]-4	PL19-4	C2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類(D3)		12K54C2Nテ-251	
14[6]-5	PL19-5	A2	IVa	陶文土器鉢	IV群b-3類～IV群e-1類(E1)		12K54A2Nテ-4641	

図版№	PL №	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理 №
14 8-6	PL19-6	A3	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-3類～IV群-a-1類(E2)	口径16.0cm	12K5A43Nv-a-7205	
14 8-7	PL19-7	C2	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-4類～IV群-a-1類(E2)	口径19.8cm	12K5A43Nv-a-1783	
14 8-8	PL19-8	A5	Iv-a	調文土器鉢？	III群-b-2類(E2)	口径15.7cm	12K5A43Nv-a-132	
14 8-9	PL19-9	B2	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-2類(E3)		12K5A43Nv-a-379	
14 8-10	PL19-10	B3	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-3類～IV-a-1群(E6)		12K5A43Nv-a-678	
14 8-11	PL19-11	C2	Iv-a	調文土器鉢	IV群-a-1類(E7)		12K5C2Nb-a-5220	
14 8-12	PL19-12	A3	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-2類(F1)	大木系上器の中の平Ⅲ式に併行するものか。	12K5A43Nv-a-8015	
14 8-13	PL19-13	C2	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-2類(F1)	大木系上器の中の平Ⅲ式に併行するものか。	12K5C2Nb-a-2468	
14 8-14	PL19-14	C3	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-2類(F3)	大木系上器の中の平Ⅲ式に併行する。	12K5A43Nv-a-4425地	
14 8-15	PL19-15	A3	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-2類(F4)		12K5A43Nv-a-4905	
14 8-16	PL19-16	A3	Iv-a	調文土器鉢	III群-b-2類(G1)		12K5A43Nv-a-7600	
14 8-17	PL19-17	A3	Iv-a	調文土器鉢	IV群-a-1類(G3)	通元式併行か。	12K5A43Nv-a-1509	
14 8-18	PL19-18	C1	Iv-a	土製品	直径6.6cm		12K5C41Nb-a-2320	
15 8-1	PL20-1	C2	Iv-b	調文土器鉢	直径6.6cm		12K5C42Nb-v-1991	
15 8-2	PL20-2	C2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-1類	見附町式併行。	12K5C42Nb-v-508	
15 8-3	PL20-3	A3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-1類	見附町式併行。	12K5A43Nb-b-8298	
15 8-4	PL20-4	B3	Iv-b	調文土器鉢	IV群-a-1類(A1)		12K5B43Nb-v-7970	
15 8-5	PL20-5	B2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(A3)		12K5B42Nb-v-8804	
15 8-6	PL20-6	C3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(A3)		12K5A43Nb-v-897	
15 8-7	PL20-7	C3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(A3)	口径23.0cm	12K5A43Nb-v-5700	
15 8-8	PL20-8	B3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(A4)		12K5B43Nb-b-683	
15 8-9	PL20-9	C1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(A4-1)		12K5C41Nb-v-9015	
15 8-10	PL20-10	C1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(A4-2)		12K5C41Nb-v-2202	
15 8-11	PL20-11	C2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(A4-3)		12K5A43Nb-v-8960	
15 8-12	PL20-12	A3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(B1)		12K5A43Nb-v-3736	
15 8-13	PL20-13	B1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(B3)	口径10.5cm 大木系上器の中の平Ⅱ式に併行	12K5A41Nb-v-9571	
15 8-14	PL20-14	C3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(B4)		12K5A43Nb-v-8210	
15 8-15	PL20-15	A2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(C1)		12K5A42Nb-b-5177	
15 8-16	PL20-16	-E3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(C1)		12K5A43Nb-b-3725	
15 8-17	PL20-17	A2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(C2)		12K5A42Nb-b-7528	
15 8-18	PL20-18	A3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(C3)		12K5A43Nb-b-3399	
15 8-19	PL20-19	C1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(C3)		12K5C41Nb-v-4473	
15 8-20	PL20-20	C3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(C3)		12K5A43Nb-v-803	
16 8-1	PL21-1	C1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(D1)	口径11.7cm	12K5A43Nb-v-7842	
16 8-2	PL21-2	B2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(D1)		12K5B42Nb-v-4073	
16 8-3	PL21-3	C3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(D2)		12K5A43Nb-v-5702	
16 8-4	PL21-4	C2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(D3)		12K5C42Nb-v-1687	
16 8-5	PL21-5	B1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(D3)		12K5B41Nb-v-1031	
16 8-6	PL21-6	B2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(D4)		12K5B42Nb-v-10486	
16 8-7	PL21-7	B2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(D4)		12K5B42Nb-v-5119	
16 8-8	PL21-8	A3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E2)	口径14.9cm	12K5A43Nb-v-6160	
16 8-9	PL21-9	B3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E3)	口径6.0×器高8.7×底径3.2cm	12K5B43Nb-v-6209	
16 8-10	PL21-10	C1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E3)	口径21.0cm	12K5C41Nb-v-6257地	
16 8-11	PL21-11	A2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E3)		12K5A42Nb-v-6606	
16 8-12	PL21-12	C1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E4)		12K5C41Nb-v-4470	
16 8-13	PL21-13	B1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E4)		12K5B41Nb-v-1049	
16 8-14	PL21-14	B2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E5)		12K5B42Nb-v-2026	
16 8-15	PL21-15	A1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(F5)		12K5A41Nb-v-9498	
16 8-16	PL21-16	C2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-3類(G3)	大木10式の影響を受けた大木系上器に併行するものか。	12K5C42Nb-v-8961	
16 8-17	PL21-17	A2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(G3)	大木系上器の中の平Ⅱ式に併行するもの	12K5A42Nb-v-4616	
16 8-18	PL21-18	A2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(G3)		12K5A42Nb-v-6606	
16 8-19	PL21-19	B1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(G4)	大木系上器の中の平Ⅱ式に併行するものか。	12K5A43Nb-v-9716	
16 8-20	PL21-20	B2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(G4)	大木系上器の中の平Ⅱ式に併行するものか。	12K5B42Nb-v-36	
16 8-21	PL21-21	C2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(G5)		12K5C42Nb-v-7637	
16 8-22	PL21-22	A3	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(G6)		12K5A43Nb-v-3728	
16 8-23	PL21-23	C2	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(H1)		12K5C42Nb-v-2014	
16 8-24	PL21-24	C1	Iv-b	調文土器鉢	III群-b-2類(H1)		12K5B41Nb-v-4476	
17 8-1	PL22-1	B1	Iv-c	調文土器鉢	I群-b類	口径16.2cm	12K5B41Nb-v-670	
17 8-2	PL22-2	B2	Iv-c	調文土器鉢	III群-b類	(IIIa)	12K5B42Nb-v-3080	
17 8-3	PL22-3	C2	Iv-c	調文土器鉢	III群-b類	(IIIa)	12K5C42Nb-c-2510	
17 8-4	PL22-4	B1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2・3類(A2)		12K5B41Nb-v-3827	
17 8-5	PL22-4	C3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(A2)		12K5C43Nb-c-3231	
17 8-6	PL22-5	C3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(A4-2)		12K5A43Nb-c-3096	
17 8-7	PL22-6	A1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(A4-2)		12K5A41Nb-c-2346	
17 8-8	PL22-7	B1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(B2)		12K5B41Nb-c-1249	
17 8-9	PL22-8	B1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(B2)		12K5H41Nb-c-3603	
17 8-10	PL22-9	B1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(B3)		12K5H41Nb-c-1047	
17 8-11	PL22-10	A2	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(D4)		12K5A41Nb-c-2614	
17 8-12	PL22-11	B3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2・3類(E1)	口径20.0cm	12K5B41Nb-c-42	
17 8-13	PL22-13	B3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(E2)	大木系上器の中の平Ⅲ式に併行するものか。	12K5B43Nb-c-2027	
17 8-14	PL22-14	B3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(F2)	大木系上器の中の平Ⅲ式に併行するものか。	12K5B43Nb-c-44	
17 8-15	PL22-15	B1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2・3類(G1)		12K5H41Nb-c-1675	
17 8-16	PL22-16	B2	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(G2)		12K5B42Nb-c-2451	
17 8-17	PL22-17	A3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(G3)		12K5A43Nb-c-2911	
17 8-18	PL22-18	B2	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(G3)		12K5B42Nb-c-2297	
17 8-19	PL22-19	A3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(G3)	大木系上器の中の平Ⅱ式に併行するものか。	12K5A43Nb-c-2359	
17 8-20	PL22-20	A1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(G3)	大木系上器の中の平Ⅱ式に併行するものか。	12K5A41Nb-c-1489	
17 8-21	PL22-21	B3	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(H1)	大木系上器の中の平Ⅱ式に併行するものか。	12K5B43Nb-c-31	
17 8-22	PL22-22	B1	Iv-c	調文土器鉢	III群-b-2類(H1)		12K5B41Nb-c-1085	

表13 遺構出土遺物觀察表(繩文土器)

表14 透構出土物類別統計表(縄文土器以外)

分類		縄穴1			縄穴2			縄穴3			縄穴4			縄穴5			縄穴6			縄穴7			縄穴8			土器			合計
		透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	透片数	地熱	合計	
石器(有茎)		10		2		1		2		2		2		3		3		13		1		1		1		1		4	
石劍		1		1																								0	
石槍		1																										0	
つぶれ付ナフ		23	10	1	1	4	2	1	1	6									2		2						3	0	
石泡		2	1																									51	1
石泡・斜器		27	1	22	7	2	7	3	1	7	11																3	0	
ブローライク		192	17	199	38	22	2	39	2	68	41	25	1	94	9	180	27	2	1	2	1	2	1	1	1	1	86	4	
石核		3	1	3	2	2	1	1	1	6																	1,200	137	
骨製石斧		1	1	1	1	1	1	1	1	1																	16	0	
器		1	15	3	3	1	1	1	1	2																	1	0	
切き石		4																										27	0
すり石		3	1																									10	0
扁平打抜石器		2	1																									6	0
石錐		6	2																									8	0
石皿		6																										0	0
硯石		1																										1	0
その他		1	3	1	6	6	6	1	6	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14	0	
小計		277	16	266	41	36	4	69	4	75	52	33	1	103	9	224	27	2	0	5	0	9	0	360	0	1,479	16		
分類		縄穴1			縄穴2			縄穴3			縄穴4			縄穴5			縄穴6			縄穴7			縄穴8			土器			合計
骸骨		5	5	2	2																						139	1	
自然遺物		2	2																								2	2	
大型遺物																											14	14	
小計		2	2	2	0	0	0	2	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	157	157	
不明土器?																											1	0	
土		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
石製品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明穿孔?		1																									1	0	
石製品																											0	0	
小計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
蛇		265	25	268	43	36	4	71	6	82	49	55	23	113	18	246	49	2	0	5	0	94	85	381	1	1,638	303		

表15 IV層出土遺物集計表(繩文土器)

分類	IVa			IVb			Vc			合計	
	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数
I群 b	1	0.02	0.07	14	0.44	1.36	11	0.61	4.47	26	1.07
III群 b	①	2	0.09		14	0.84		7	0.47		23 1.40
	②	4	0.27				5	0.25		9	0.52
	小計	6	0.36	1.23	14	0.84	2.60	12	0.72	5.27	32 1.92
A1	68	3.64		48	2.98		5	0.18		121	6.79
A1-1	1	0.07		1	0.03					2	0.09
A1-2										0	0.00
A1-3	3	0.12		2	0.24					5	0.36
A2	7	0.37		18	0.94		3	0.20		28	1.51
點付帯	32	1.71		40	1.63		9	0.45		81	3.78
A4	6	0.32		10	0.63		2	0.05		18	0.99
A4-1	1	0.05		1	0.14					2	0.19
A4-2	1	0.03		4	0.24		3	0.29		8	0.56
A4-3	8	0.56		7	0.38					15	0.94
A4-4	2	0.29								2	0.29
小計	129	7.14	24.37	131	7.20	22.26	22	1.17	8.58	282	15.51
B1	11	0.76		6	0.18					17	0.93
B2	2	0.13		3	0.11		6	0.31		11	0.54
B3	1	0.03		9	0.75		1	0.03		11	0.80
B4				1	0.03					1	0.03
小計	14	0.91	3.11	19	1.06	3.28	7	0.33	2.42	40	2.35
C1	59	2.83		96	4.69		27	0.90		182	8.43
C2	22	1.37		7	0.39		4	0.11		33	1.87
C3	1	0.03		13	0.89		4	0.11		18	1.03
C4				1	0.03					1	0.03
C5				4	0.13		1	0.15		5	0.28
C6	3	0.16								3	0.16
小計	85	4.38	14.95	121	6.13	18.95	36	1.27	9.31	242	11.76
D1	48	1.98		21	0.83		8	0.39		77	3.21
D2	2	0.14		2	0.12					4	0.26
短刻線	1	0.03		6	0.18		1	0.02		8	0.22
D4	1	0.04		10	0.58		3	0.40		14	1.03
D5										0	0.00
小計	52	2.19	7.47	39	1.71	5.29	12	0.81	5.93	103	4.71
E1	45	2.03		52	2.84		14	0.92		111	5.79
E2	160	7.78		109	5.00		49	1.91		318	14.68
E3	16	1.10		27	1.65		19	1.34		62	4.09
E4	3	0.08		8	0.43		2	0.43		13	0.94
E5				1	0.10					1	0.10
E6	2	0.19		2	0.31		2	0.07		6	0.57
E7	1	0.03								1	0.03
小計	227	11.21	38.26	199	10.33	31.94	86	4.66	34.16	512	26.19
F1	25	1.54		33	1.09		14	0.36		72	2.99
F2	4	0.13		7	0.38		7	0.33		18	0.84
F3	2	0.24								2	0.24
F4	3	0.26		1	0.04					4	0.30
F5	3	0.08		5	0.13					8	0.21
F6							1	0.02		1	0.03
小計	37	2.25	7.68	46	1.64	5.07	22	0.71	5.20	105	4.60
G1	6	0.20		15	0.57		15	0.68		36	1.44
G2	1	0.03		2	0.24		8	0.25		11	0.52
G3	6	0.30		15	0.86		17	0.96		38	2.12
G4	5	0.23		19	0.70		18	1.00		42	1.93
G5				1	0.08		2	0.20		3	0.28
G6				2	0.12					2	0.12
小計	18	0.76	2.59	54	2.56	7.92	60	3.08	22.58	132	6.40
H1	1	0.03		5	0.28		3	0.25		9	0.57
H2										0	0.00
H3										0	0.00
小計	1	0.03	0.10	5	0.28	0.87	3	0.25	1.83	9	0.57
不明		2	0.05		2	0.15		1	0.04	5	0.24
小計	2	0.05	0.17	2	0.15	0.46	1	0.04	0.29	5	0.24
口縫部破片数合計	572	29.30	100.0	641	32.34	100.0	272	13.64	100.0	1,488	75.28
胸膨・底部破片数合計	7,830			9,148			3,578			20,556	
総計	8,402			9,792			3,850			22,014	

表16 造模外(IV層除く)出土遺物集計表(縄文土器)

分類	表 Ⅲ		機 亂		I		II		III		歎		合計		
	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	
I群 b	6	0.35							1	0.03			7	0.38	
III群 a	①	4	0.22	7	0.42								11	0.63	
	②	1	0.08	1	0.05								2	0.13	
	小計	5	0.29	8	0.47	0	0.00	0	0	0.00	0	0.00	13	0.76	
A1	10	0.50	35	1.61	2	0.05			8	0.47	3	0.08	58	2.71	
A1-1	1	0.04											1	0.04	
A1-2													0	0.00	
A1-3		1	0.06										1	0.06	
A2		7	0.34						5	0.27			12	0.61	
貼付 帶	A3	3	0.21	23	0.93	3	0.08		8	0.42	3	0.08	38	1.71	
A4	2	0.06	1	0.11									3	0.17	
A4-1		1	0.04										1	0.04	
A4-2													0	0.00	
A4-3													0	0.00	
A4-4					2	0.05							2	0.05	
	小計	16	0.81	66	3.09	7	0.18	0	0	21	1.15	6	0.16	116	5.38
B1					1	0.03							1	0.03	
B2					3	0.15							3	0.15	
B3	2	0.06											2	0.06	
B4													0	0.00	
	小計	2	0.06	3	0.15	1	0.03	0	0	0	0.00	0	0.00	6	0.23
C1	19	0.83	16	0.71	4	0.12			3	0.09			42	1.75	
C2	6	0.42	3	0.23									9	0.61	
C3	3	0.12			2	0.06							5	0.18	
C4													0	0.00	
C5		2	0.13										2	0.13	
C6		2	0.05										2	0.05	
	小計	28	1.37	23	1.17	6	0.18	0	0	3	0.09	0	0.00	60	2.75
D1	12	0.47	14	0.62					2	0.16	2	0.08	30	1.33	
D2		2	0.06										2	0.08	
D3	1	0.03											1	0.03	
D4		3	0.08						2	0.13			5	0.22	
D5		1	0.04										1	0.04	
	小計	13	0.49	20	0.82	0	0.00	0	0	4	0.31	2	0.08	39	1.69
E1	16	0.80	29	1.39	2	0.07			8	0.38			55	2.63	
E2	62	3.07	42	1.99	5	0.13			23	1.06	15	0.76	147	7.03	
E3	7	0.37	7	0.36					3	0.20			17	0.87	
E4		1	0.04						2	0.10	3	0.13	6	0.28	
E5		1	0.04						1	0.05			2	0.09	
E6		2	0.10						1	0.02			3	0.12	
E7													0	0.00	
	小計	85	4.23	82	3.87	7	0.20	0	0	38	1.82	18	0.89	230	11.01
F1	10	0.31	6	0.23					1	0.03	3	0.09	20	0.65	
F2	3	0.08			1	0.03			3	0.16			7	0.26	
F3													0	0.00	
F4													0	0.00	
F5	1	0.04											1	0.04	
F6													0	0.00	
	小計	14	0.43	6	0.23	1	0.03	0	0	4	0.18	3	0.09	28	0.95
G1	3	0.08	3	0.13					3	0.16			9	0.37	
G2		1	0.08										1	0.08	
G3	3	0.12	7	0.37	1	0.03			2	0.06			13	0.57	
G4	5	0.25											5	0.25	
G5													0	0.00	
G6		1	0.06						1	0.04			2	0.10	
	小計	11	0.44	12	0.63	1	0.03	0	0	6	0.26	0	0.00	30	1.36
H1	4	0.30	2	0.08					3	0.29			9	0.58	
H2													0	0.00	
H3									3	0.22			3	0.22	
	小計	4	0.30	2	0.08	0	0.00	0	0	6	0.42	0	0.00	12	0.79
不明													0	0.00	
	小計	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0.00
口縁部破片数合計	184	8.77	222	10.44	23	0.63	0	0.000	83	4.26	29	1.22	541	25.31	
側面部・底面破片数合計	2,258	2,412	386						1,043		439		6,538		
総 計	2,442	2,634	409		0				1,126		468		7,079		

表17 遺構外(IV層除く)出土遺物集計表(繩文土器以外)

IV 自然科学分析

大岱遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1.はじめに

上ノ国町に所在する大岱遺跡は、日本海に注ぐ天の川河口より約1.1km南東の左岸の緩斜面に立地する。本遺跡より出土した縄文時代中期末葉～後期初頭の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2.試料と方法

分析対象は、大岱遺跡より出土した黒曜石製石器30点である（表1、PL4）。

試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、測定面表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計 SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月、1999など）。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)とルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

1) Rb 分率=Rb 強度×100/(Rb 強度+Sr 強度+Y 強度+Zr 強度)

2) Sr 分率=Sr 強度×100/(Rb 強度+Sr 強度+Y 強度+Zr 強度)

3) Mn 強度×100/Fe 強度

4) log(Fe 強度/K 強度)

表1 分析対象

分析No.	器種	グリッド	遺構	層位	遺物番号
1	石槍	A3		IVa	5000
2	石槍	A3		IVa	1611
3	石槍	A3		IVb	6184
4	石槍			擾乱	1247
5	石槍	A2		IVa	3142
6	石槍	B2		IVb	2818
7	石鐵			擾乱	616
8	石鐵	A3	堅穴2	覆土	1064
9	石鐵	A3		IVb	6182
10	石鐵	B2		IVb	2699
11	石鐵	A3		IVa	5990
12	石鐵	B2		IVb	402
13	石鐵	B3		IVa	3261
14	石鐵	C2		IVb	1840
15	石鐵	B3		IVb	3706
16	石鐵	B2		IVb	4254
17	石鐵	C2		IVa	5309
18	石鐵			擾乱	1114
19	石鐵			擾乱	1256
20	石鐵	A2		IVb	2845
21	石鐵			擾乱	2700
22	石鐵	C3		IVa	4229
23	石鐵	B1		IVb	1200
24	石鐵			擾乱	51
25	石鐵			擾乱	2422
26	石鐵	B2		IVb	2697
27	石鐵	B2		IVb	4153
28	スクレイバー	C2		IVb	6183
29	Rフレイク	B2		IVa	5090
30	Rフレイク	A3		IVb	1837

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図（横軸Rb分率－縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率－縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定するものである。この方法は、指標値に蛍光X線のエネルギー差ができる限り小さい元素同士を組み合わせて算出しているため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、

原則として非破壊である出土遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響をまぬがれないといわれる（望月、1999）。

極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少する。また、風化試料の場合でも、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少する（同上）。そのため、試料の測定面にはなるべく奇麗で平坦な面を選び、測定した。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、あるいはメラミンフォーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。

原石試料も、採取原石を割って新鮮な面を表出させた上で产地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石採取地点および点数を、図1に各原石の分布図を示す。

3. 分析結果および考察

図2および図3に黒曜石原石の判別図に遺物をプロットした図を示す。各図は視覚的にわかりやすくするために、各判別群を楕円で取り囲んである。試料30点のうち、2点が白滝1群、27点が赤井川群の範囲にプロットされた。分析No.12は、図2では赤井川群の範囲内にプロットされたが、図3では赤井川群のやや下方にプロットされた。これは先述したように遺物の風化による影響と考えられ（望月、1999）、赤井川群に属する可能性が高い。測定値および产地推定結果を表3に示す。

表2 北海道・東北地方黒曜石産地の判別群

都道府県・エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢露頭(15)
	白滝2	7号沢川支流(2)、8号沢露頭(10)、十一勝右沢露頭下河床(11)、アシサイの滝露頭(10)
	赤井川	曲川・土木川(24)
	上士幌	十勝二股(4)タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)
	置戸	置戸山(5)
	所山	所山(5)
	豊浦	豊浦(10)
	旭川	近文台(8)、雨綱台(2)
	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別1	中山(66)
青森	秩父別2	中山(66)
	秩父別3	中山(66)
	遠軽	社名瀬川河床(2)
	生田原	仁田布川河床(10)
	留辺蘿	ケショマック川河床(9)
	鰐路	鰐路市宮スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)
	木造	出来島
	深浦	出来島海岸(15)
	秋田	八森山(7)、八森山公園(8)
	男鹿	金ヶ崎温泉(10)
宮城	鷲巣	鷲巣海岸(4)
	岩手	北上川(9)
	山形	羽黒(月山)月山莊前(10)
	宮崎	湯ノ倉(40)
	色麻	根岸(40)
	仙台	秋保1(18)
	塙瀬	秋保2(10)
	塙瀬	塙瀬(10)



図1 北海道・東北地方黒曜石原石分布図

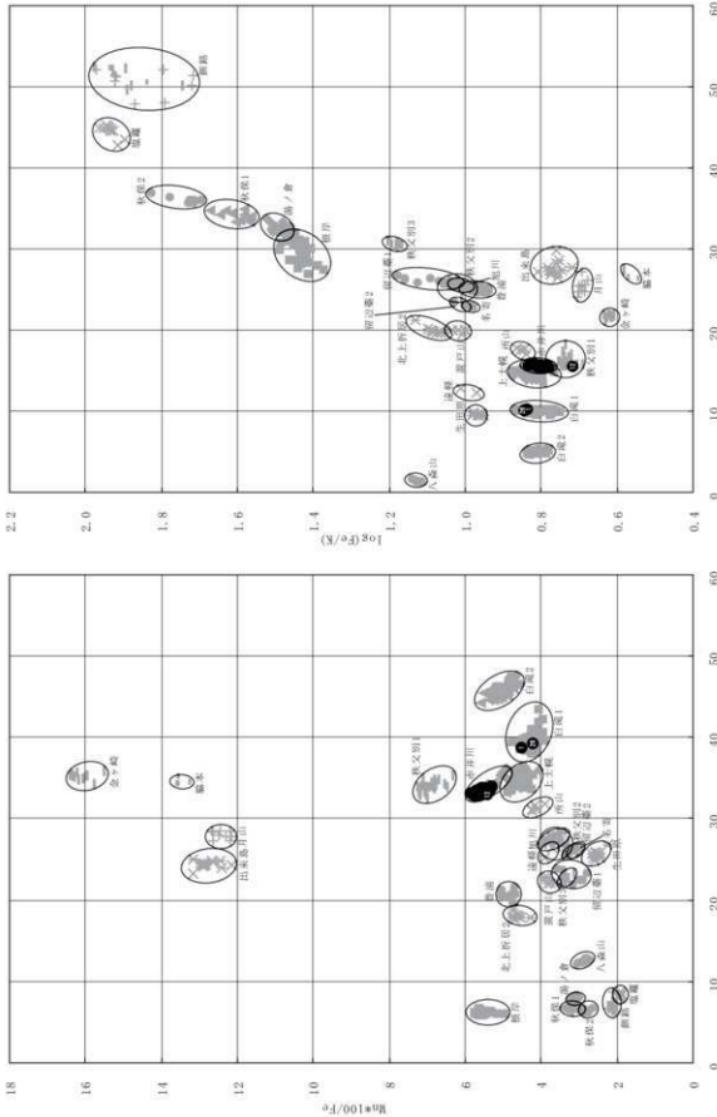


图2 泥炭石产地推定判别图(1)

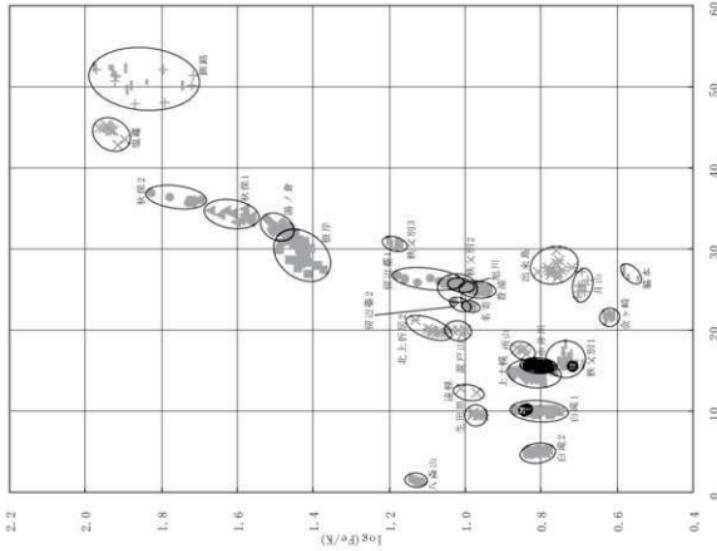


图3 泥炭石产地推定判别图(2)

表3 測定値および产地推定結果

分析No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 Fe	Sr分率	log Fe K	判別群	エリア
1	188.1	58.1	1287.1	502.0	133.5	245.8	413.0	38.79	4.51	10.31	0.84	白竜1	白竜
2	306.0	104.8	1862.7	725.9	343.8	360.7	773.3	32.94	5.63	15.60	0.78	赤井川	赤井川
3	325.2	113.3	2015.2	738.7	342.6	362.6	764.6	33.45	5.62	15.51	0.79	赤井川	赤井川
4	342.7	121.0	2111.4	793.7	367.0	386.7	822.4	33.49	5.73	15.49	0.79	赤井川	赤井川
5	311.0	109.2	1896.0	752.2	346.8	373.1	785.8	33.31	5.76	15.36	0.79	赤井川	赤井川
6	241.7	85.5	1458.1	575.7	266.8	289.9	597.8	33.28	5.86	15.42	0.78	赤井川	赤井川
7	289.9	100.2	1804.2	677.2	315.8	339.1	716.7	33.05	5.55	15.41	0.79	赤井川	赤井川
8	273.1	89.8	1656.0	618.1	289.9	307.7	625.9	33.56	5.42	15.74	0.78	赤井川	赤井川
9	317.8	112.6	2026.9	741.9	344.8	357.8	737.8	33.99	5.55	15.80	0.80	赤井川	赤井川
10	278.7	97.9	1767.3	684.7	318.1	337.4	709.1	33.41	5.54	15.52	0.80	赤井川	赤井川
11	293.3	104.5	1816.9	726.0	340.4	369.2	775.9	32.83	5.75	15.39	0.79	赤井川	赤井川?
12	204.0	57.1	1055.6	416.3	196.3	205.8	440.0	33.08	5.41	15.60	0.71	赤井川?	赤井川?
13	230.6	78.9	1483.1	544.8	254.5	266.7	554.5	33.62	5.32	15.71	0.81	赤井川	赤井川
14	297.7	108.2	1924.0	739.3	345.3	365.2	771.2	33.29	5.62	15.55	0.81	赤井川	赤井川
15	241.8	84.6	1597.7	578.0	266.9	280.0	573.9	34.02	5.29	15.71	0.82	赤井川	赤井川
16	183.6	64.1	1157.6	432.8	202.1	209.8	440.5	33.67	5.53	15.73	0.80	赤井川	赤井川
17	272.4	91.1	1686.8	653.2	303.1	320.0	671.5	33.53	5.40	15.56	0.79	赤井川	赤井川
18	226.3	77.8	1391.2	555.1	257.1	275.4	578.8	33.31	5.59	15.43	0.79	赤井川	赤井川
19	304.3	109.7	2059.2	731.6	339.7	355.9	734.5	33.84	5.33	15.71	0.83	赤井川	赤井川
20	271.1	96.4	1750.9	629.6	290.4	305.0	635.0	33.85	5.50	15.61	0.81	赤井川	赤井川
21	300.9	106.9	1882.6	734.3	348.9	365.9	766.8	33.14	5.68	15.74	0.80	赤井川	赤井川
22	320.3	114.5	2003.2	751.4	348.1	370.3	769.1	33.56	5.71	15.55	0.80	赤井川	赤井川
23	264.0	92.4	1689.5	669.3	314.0	330.3	690.3	33.40	5.47	15.67	0.81	赤井川	赤井川
24	310.4	110.0	1965.9	746.6	349.5	369.1	762.7	33.51	5.59	15.69	0.80	赤井川	赤井川
25	256.2	90.7	1604.7	636.0	299.1	319.7	658.6	33.24	5.65	15.63	0.80	赤井川	赤井川
26	290.7	85.3	2024.3	745.4	192.6	348.2	610.2	39.31	4.21	10.15	0.84	白竜1	白竜
27	179.7	60.3	1137.8	419.8	193.0	198.5	428.3	33.87	5.30	15.57	0.80	赤井川	赤井川
28	254.3	90.5	1609.9	617.9	284.2	305.5	633.9	33.55	5.62	15.43	0.80	赤井川	赤井川
29	316.6	111.8	2036.4	746.3	346.3	366.3	750.0	33.79	5.49	15.68	0.81	赤井川	赤井川
30	237.4	82.0	1464.8	536.1	253.8	267.2	565.4	33.04	5.60	15.64	0.79	赤井川	赤井川

4. おわりに

大倍遺跡出土の黒曜石製石器 30 点について、蛍光 X 線分析による产地推定を行った結果、2 点が白竜エリア、28 点が赤井川エリアと推定された。

引用文献

望月明彦 (1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石产地推定、大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書 2 一上和田城山遺跡篇一」:172-179、大和市教育委員会。

大岱遺跡から出土した動物遺体

中村賀太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

大岱遺跡は、日本海に注ぐ天の川の河口から約 1.1 km、天の川左岸の緩斜面に立地し、標高は 13.5 ~14.7m である。大岱遺跡の発掘調査では縄文時代中期末～後期初頭の遺構が検出され、これらの遺構内や包含層から動物遺体が出土した。ここでは動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、堅穴 1 (試料 No. 1~4・25)、堅穴 2 (試料 No. 5)、堅穴 4 (試料 No. 6)、堅穴 5 (試料 No. 7・8)、堅穴 6 (試料 No. 9)、堅穴 7 (試料 No. 10・11)、堅穴 8 (試料 No. 12~14)、堅穴 9 (試料 No. 15・16)、土壌 2 (試料 No. 17~19)、IVa 層 (試料 No. 20・21)、IVb 層 (試料 No. 22~24) の各遺構・層から出土した計 25 袋の動物遺体である (表 1、PL5)。それぞれの袋には 1 点ないし複数点の動物遺体が収められていた。

同定は肉眼で現生標本との比較により行った。

同定した試料は上ノ国町教育委員会に保管されている。

3. 結果と考察

いずれも哺乳綱の骨片で、すべて焼けていた。色調は黒～灰～白色であったが、ほとんどは白色で、骨片の多くが高温で焼かれたと考えられる。また、白色の骨片には熱を受けた際の変形、亀裂が見られるものもあり、これらの骨は生のうちに焼かれたと考えられる。

種まで同定できたのは試料 No. 15 のシカ (*Cervus nippon*) 中手骨あるいは中足骨の遠位端破片 1 点のみである。他の試料は、熱による変形、小片化などの理由で、哺乳綱までの同定に留まった。哺乳綱とした試料の多くは、緻密質が密で、サイズが大きく、大型の陸獣の可能性が考えられる骨片が多い。ただし、試料 No. 6 の長骨骨幹破片は、緻密質の組織が疎で海獣やヒトの可能性が考えられる。

表1 大岱遺跡から出土した動物遺体

試料No.	グリッド	遺構	部位	遺物No.	重量(g)	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
1	C2	竪穴1	覆土	1235	0.5	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	1	焼(白色), 鹿歯?
2	C3	竪穴1	覆土	1236	0.7	哺乳類	不明	不明	破片	1	焼(白色)
3	C3	竪穴1	覆土	3100	1.5	哺乳類	不明	不明	破片	3	焼(白色, 龜裂)
4	C2	竪穴1(Pt+12)	覆土	3101	0.3	哺乳類	指骨?	不明	近位端?破片	1	焼(白色, 龜裂)
5	B3	竪穴2	覆土	1218	0.4	哺乳類	指骨?	不明	近位端?破片	1	焼(白色, 龜裂)
6	C2	竪穴4	覆土	613	1.5	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	2	焼(灰~白色, 龜裂), 線質碎, 海殻? ト?
7	C1	竪穴5	覆土	689	2.1	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	4	焼(白色, 龜裂), 大型陸蝕?
8	C1	竪穴5(Pt+34)	覆土	690	0.6	哺乳類	不明	不明	破片	1	焼(白色, 龜裂)
9	B1	竪穴6	覆土	1	4.1	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	10	焼(白色), 大型陸蝕?
						哺乳類	不明	不明	破片	12	焼(白色)
10	B3	竪穴7	覆土	232	1.2	哺乳類	長骨?	不明	骨幹?破片	1	焼(白色), 廉
11	B3	竪穴7	覆土	238	3.1	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	8	焼(白色, 龜裂), 大型陸蝕?
12	A1	竪穴8	覆土	2	1.9	哺乳類	不明	不明	破片	3	焼(白色)
13	A2	竪穴8	覆土	3	3	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	10	焼(白色, 龜裂), 大型陸蝕?
14	A2	竪穴8	覆土	1	0.6	哺乳類	不明	不明	破片	3	焼(白色, 龜裂)
						シガ	中手骨 ^中 足骨 ^足	不明	遠位端?破片	1	焼(白色, 龜裂)
15	A1	竪穴9	覆土	2	7.7	哺乳類	長骨	不明	近位端?破片	1	焼(白色), 陸蝕?
						哺乳類	不明	不明	骨幹破片	10	焼(白色, 龜裂), 陸蝕?
						哺乳類	不明	不明	破片	34	焼(灰~白, 龜裂)
16	A1	竪穴9	覆土	1	0.9	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	3	焼(白色), 大型陸蝕?
						哺乳類	上顎骨 ^上 下顎骨 ^下	不明	齒槽, 破片	2	焼(白色), 陸蝕?
17	C1	土壤2	覆土	325	10.4	哺乳類	椎骨	不明	破片	1	焼(灰~白色), 陸蝕?
						哺乳類	肩甲骨?	不明	破片	2	焼(灰~白色, 龜裂), 大型陸蝕?
18	C1	土壤2	覆土	692	2	哺乳類	不明	不明	破片	350	焼(灰~白)
						哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	2	焼(白色), 大型陸蝕?
						哺乳類	不明	不明	破片	17	焼(灰~灰~白)
19	C1	土壤2	覆土	691	1.2	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	1	焼(白色), 大型陸蝕?
						哺乳類	不明	不明	破片	>10	焼(白色)
20	A2	Iva		8925	2.3	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	4	焼(白色, 龜裂), 大型陸蝕?
						哺乳類	不明	不明	破片	2	焼(白色)
21	A2	Iva		8927	1.3	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	3	焼(白色, 龜裂), 大型陸蝕?
22	C3	Ivb		6213	0.4	哺乳類	不明	不明	破片	1	焼(白色, 龜裂), 廉
23	A2	Ivb		6211	1.4	—	—	—	—	2	岩石
24	A3	Ivb		6214	0.3	哺乳類	不明	不明	破片	1	焼(灰~白色), 廉
25	C3	竪穴1	覆土	3099	0.4	哺乳類	長骨	不明	骨幹破片	1	焼(白色, 龜裂), 陸蝕?

V まとめ

本調査では、縄文時代の堅穴建物跡 9 軒、土壙 3 基、溝 1 条、柱穴の遺構の他、江戸時代の畝状遺構が検出された。出土遺物は、縄文時代の土器、石器、石製品、土製品、自然遺物、江戸時代の鉄製品、銅製品、陶磁器が合計 42,884 点確認されている。膨大な遺物量に圧倒されながら行われた調査であった。

縄文土器は、縄文時代の早期後半、縄文中期中葉～後期初頭の時期に相当し、そのうち中期後葉の土器が多いため、中期後葉に遺跡の繁栄のピークがみられることが判明した。

縄文中期中葉～後期初頭は、大岱遺跡の周辺に分布している小岱遺跡や大岱沢 A 遺跡においても土器の出土量が多い時期で、当該時期にこの地域一帯の広い範囲で縄文時代の人々が生活を営んでいたことが確認された。

周辺の小岱遺跡と大岱沢 A 遺跡の過年度の発掘調査で検出された遺構は、標高約 33 ～ 42 m に位置する小岱遺跡では堅穴建物跡 14 軒、土壙 26 基、標高 45 ～ 55 m に位置する大岱沢 A 遺跡ではプラスコ状ピット 2 基、土壙 7 基、T ピット 9 基、焼土 3 基が検出されている。さらに、今回の大岱遺跡の発掘調査では、標高約 14 m 地点で堅穴建物跡が検出されている。このことから、大岱遺跡と小岱遺跡が位置する標高 14 ～ 42 m 地点では、集落としての土地利用、それより高地の大岱沢 A 遺跡が位置する丘陵上では狩猟場などとしての土地利用が考えられ、標高によって土地利用が異なっていることが考えられた。

その他、今回の発掘調査の新たな見知りの一つとして縄文時代早期の土器が出土したことが挙げられる。大岱遺跡周辺における早期の遺跡は、これまで大岱遺跡より海岸線を西側へ 2 ～ 3 km 進んだ地点の原歌遺跡、大瀬遺跡や四十九里沢 A 遺跡周辺でしか確認されていなかった。今回の大岱遺跡の発掘調査では、早期に該当する遺物包含層を確認することができなかつたが、四十九里沢 A 遺跡と大岱遺跡の間の丘陵上に縄文時代早期の遺跡が分布している可能性も想定された。

縄文時代以外では、18 世紀～幕末頃の肥前系磁器が出土しており、Ko-d 火山灰降下後に畝状

遺構がみられるなど 1640 年以降の江戸時代に畝作としての土地利用も確認された。

また、本調査では IV 層から口縁部に帯状の縄文を施した貼付帶を施す天祐寺式とされる後期初頭に位置けられる土器が中期後葉に位置付けられる煉瓦台式の土器と共伴するため、その編年的な位置付けについて疑問が生じた。このことについては、1986・1987 年に松前町の寺町貝塚の発掘調査を担当した久保泰氏が寺町貝塚の発掘調査において、大岱遺跡と同様の出土状況であったことを指摘している（松前町 1988）。久保氏は、その報告書の中で「静狩・煉瓦台式は「刺突の加えられた隆起帶と整った斜行縄文や羽状縄文に特徴づけられる土器」であり、天祐寺式は「縄文の施された貼付帶」を特徴とする土器で（中略）両者が混然とした状態で出土するのであった。」と述べている。

天祐寺式は、1981 年 3 月発行の『考古学雑誌』の中で大沼忠春氏が後期初頭として型式設定をした土器である（大沼 1981）。その天祐寺式とされる土器は、1959 年に函館市天祐寺で本堂新築のため基礎工事終了後に発掘調査が実施され、採集された資料である（石川 1963）。執筆者の石川政治氏は、出土した土器について「発見された土器片は、一般に余市円筒式土器といわれるもので、縄文文化中期後半に属するものである。（中略）おそらく、天祐寺貝塚の土器文化は、サイベ沢遺跡よりも新しく、入江貝塚の入江 A 式、及び入江 B 式よりも古い時期に位置されるべきものであろう。」と中期の範疇に納まるとしている。つまり、函館市天祐寺貝塚の土器（天祐寺式）は、初め余市式土器群の一部として中期後半に位置付けられていたものを大沼氏が後期初頭に求めたものであるが、このことについて鈴木克彦氏は大沼氏の編年的な位置付けについて疑問を呈している（鈴木 1999）。本報告では著者の力不足もありこの問題について十分な検討ができなかつたが、当該地域における中期終末の資料は現在蓄積されつつあり、再検証が可能であると思われる。そのため、本報告で検証できなかつたその他の事象についても今後の課題として結びとしたい。

写 真 図 版



1. 調査区完掘状況（北東から）



2. 調査区完掘状況（南から）



1. Ko-d 火山灰検出状況（南西から）



2. B-Tm 火山灰検出状況（西から）

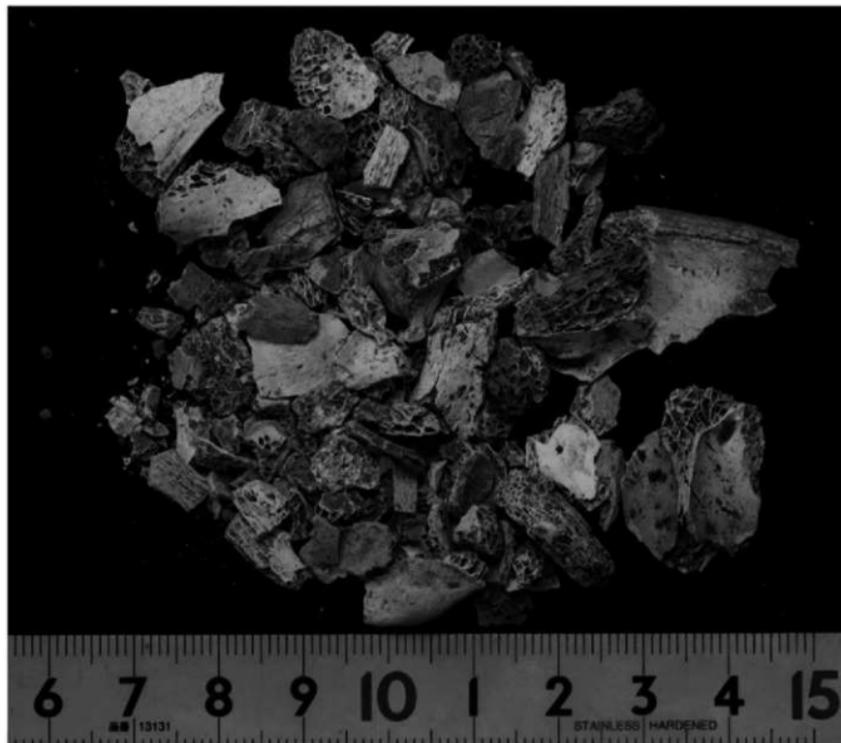


1. IVa層 遺物出土状況（南から、13図-4、13図-9、14図-8）



2. 積穴建物跡1 遺物出土状況（東から 8図-4、9図-8）



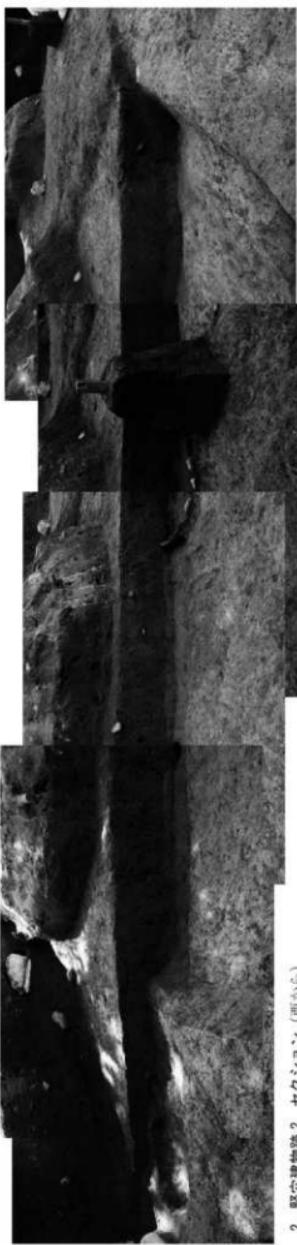


図版1 大岱遺跡から出土した動物遺体

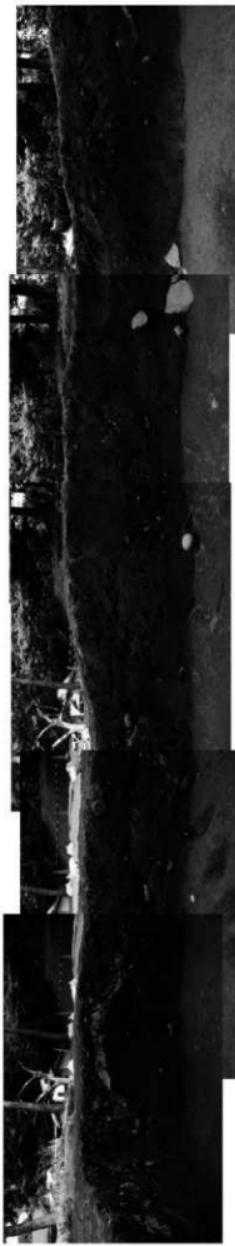
上段：シカ中手骨あるいは中足骨（試料 No. 15） 下段：哺乳綱破片（試料 No. 17）



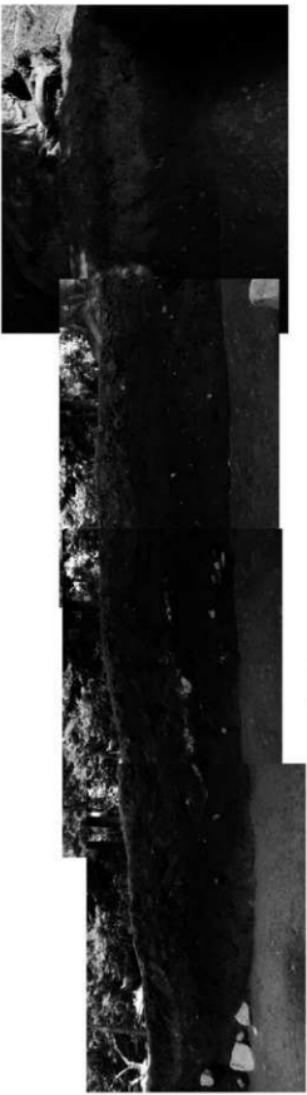
1. 壊穴植物跡 1・3 セクション (北から)



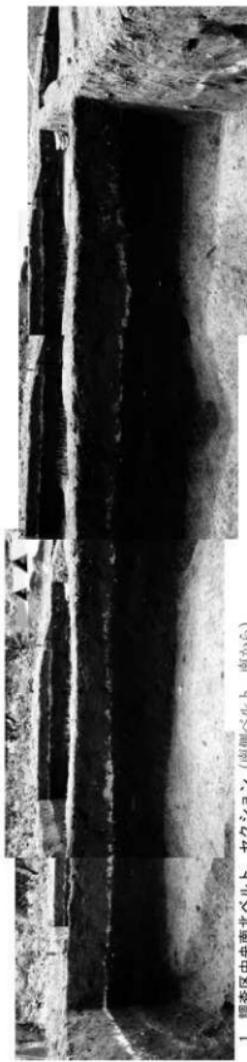
2. 壊穴植物跡 2 セクション (西から)



1. 調査区中央東西ベルト セクション（西側ベルト、南から）



2. 調査区中央東西ベルト セクション（東側ベルト、南から）



1. 調査区中央南北ベルト セクション（南側ベルト、南から）



2. 調査区中央南北ベルト セクション（北側ベルト、南から）



1. 調査前風景（北から）



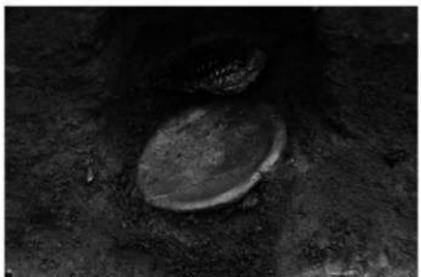
2. 煙跡 検出状況（西から）



3. 煙跡 完掘状況（南西から）



4. IVa層 遺物出土状況（西から）



5. 土製品 出土状況（北から）



6. 縄文土器 出土状況（西から）



7. 縄文土器 出土状況（北から）



8. 縄文土器 出土状況（北から）



1. 壁穴建物跡 3 ~ 6 検出状況（西から）



2. 壁穴建物跡 2 検出状況（南西から）



3. 壁穴建物跡 7 検出状況（南西から）



4. 壁穴建物跡 2 遺物出土状況（西から）



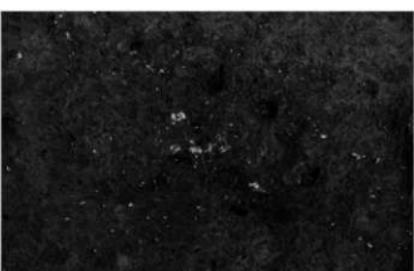
5. 壁穴建物跡 5 遺物出土状況（西から）



6. 土壌 2 検出状況（東から）



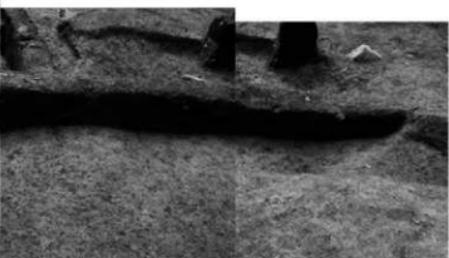
7. 土壌 2 燃土・炭化物・獸骨出土状況（東から）



8. 繩文土器出土状況（北から）



1. 壊穴建物跡 3・4 セクション（東から）



2. 壊穴建物跡 2・7 セクション（東から）



3. 壊穴建物跡 1（土壤 1）セクション（西から）

4. 壊穴建物跡 1 地床炉 検出状況（西から）



5. 壊穴建物跡 2 石組炉 検出状況（東から）



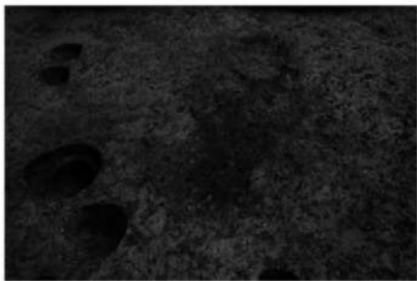
6. 壊穴建物跡 2 石組炉 検出状況（北から）



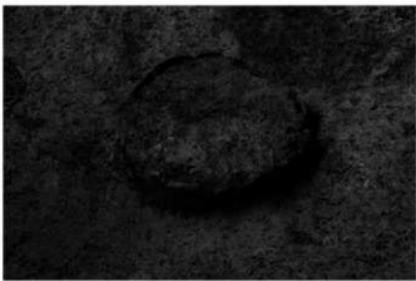
1. 竪穴建物跡 7 完掘状況（西から）



2. 竪穴建物跡 8 地床炉 検出状況（北東から）



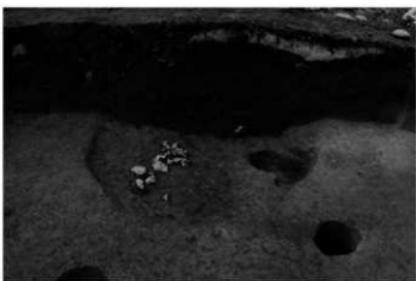
3. 竪穴建物跡 8 埋設炉 検出状況（南西から）



4. 竪穴建物跡 8 埋設炉 検出状況（西から）



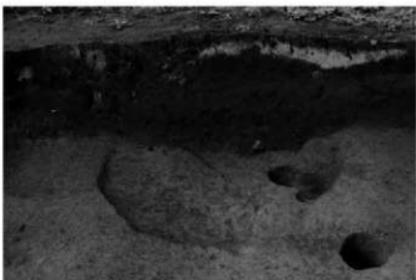
5. 竪穴建物跡 9 完掘状況（南から）



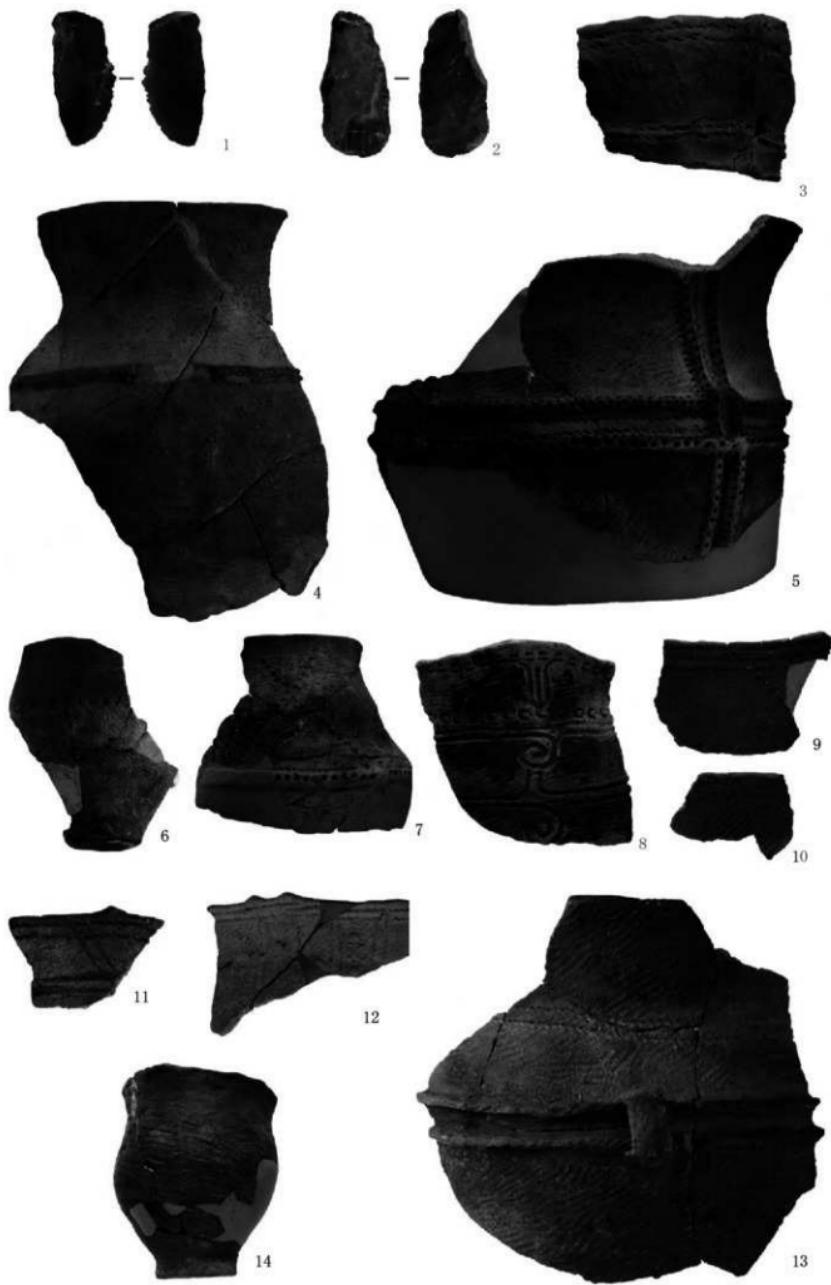
6. 土壙 3 石器集中箇所 検出状況（東から）



7. 土壙 3 石器集中箇所 検出状況（南から）



8. 土壙 3 完掘状況（東から）





1



—

3



4



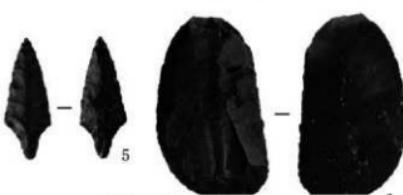
7



9



2



5

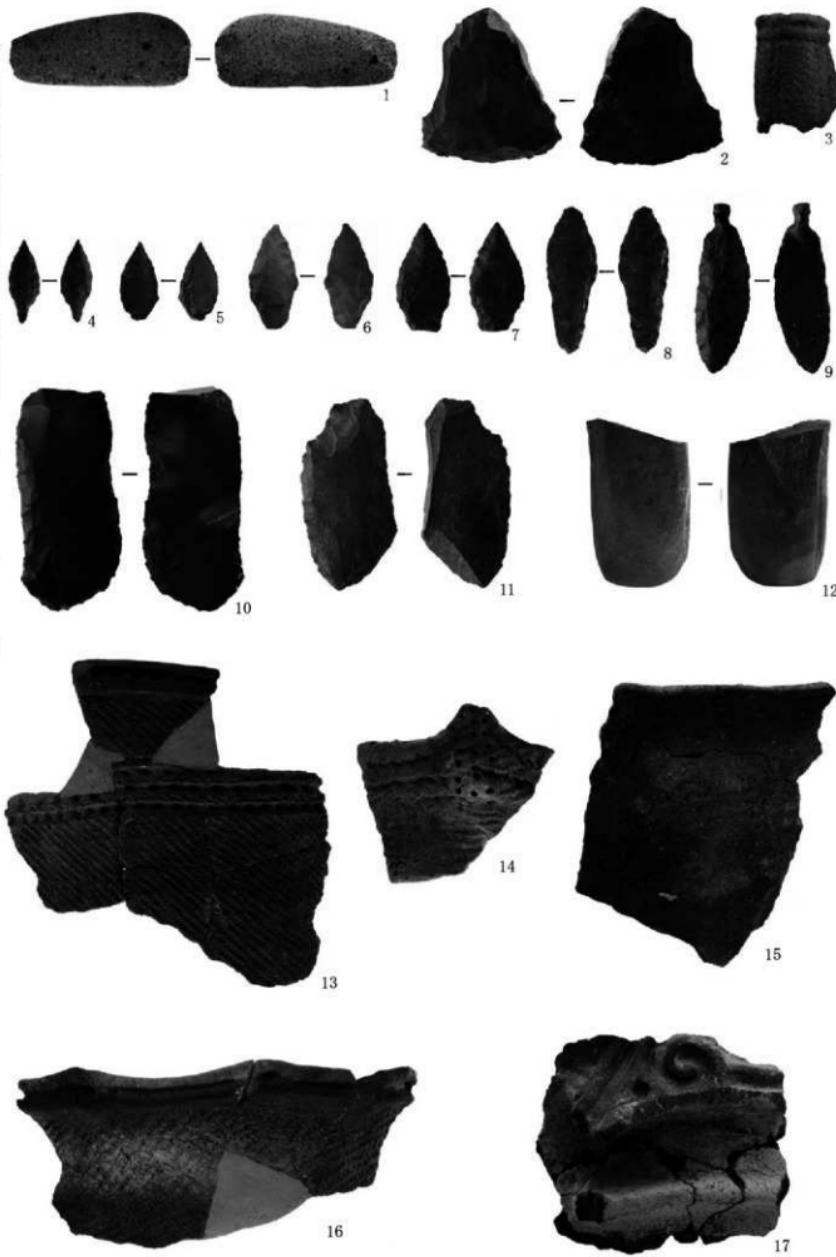
6



8



P
16 出土遺物（縄文土器・石器 堅穴建物跡 6・1、7・2・3、8・4・5 17）





P 18
出土遺物（縄文土器
IV a 層）

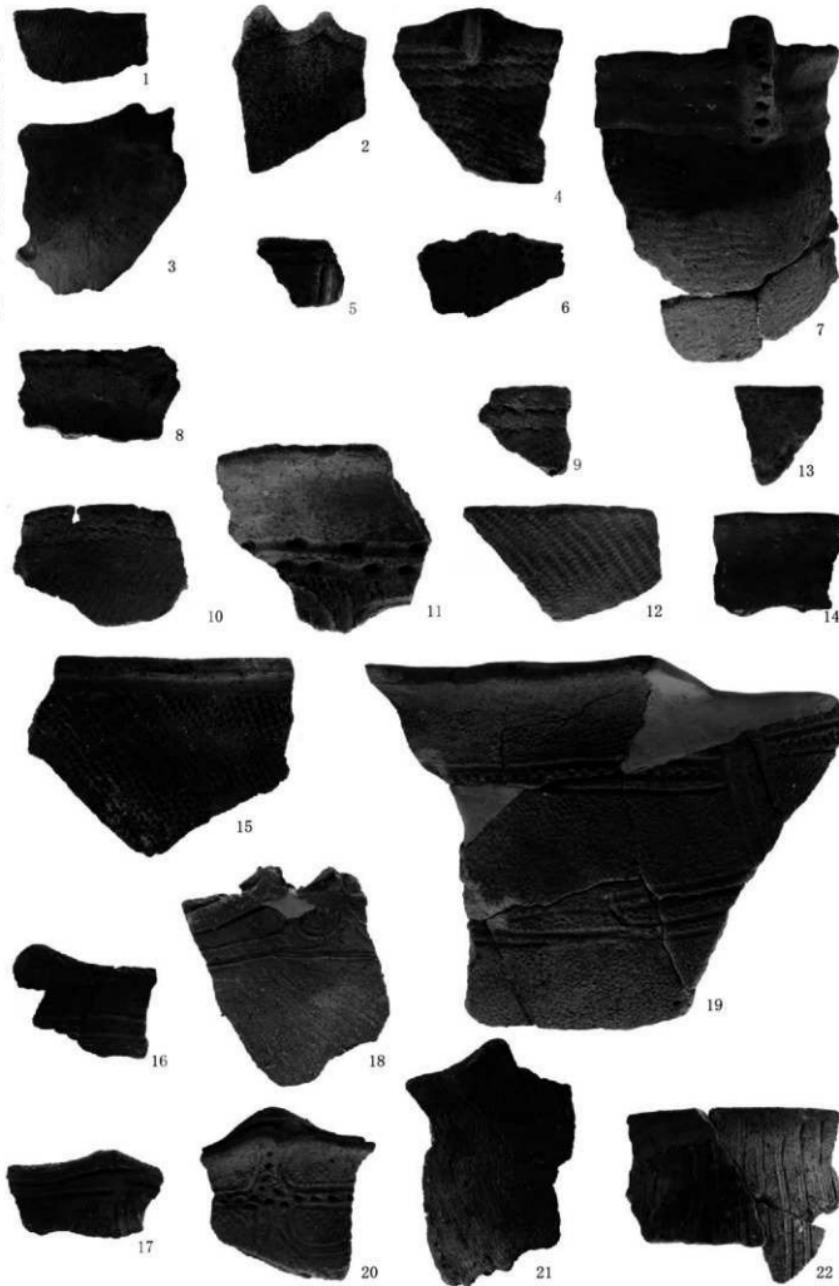




P L 20
出土遺物（縄文土器
IV b 層）







報 告 書 抄 錄

ふりがな	おおたいいせき						
書名	大岱遺跡						
副書名	風力発電所に伴う送電線支持物(鉄塔)建設事業に係る発掘調査報告書						
卷次	1						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	塚田直哉						
編集機関	上ノ国町教育委員会						
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL0139-55-2230						
発行年月日	2012年12月28日						
ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経		
大岱遺跡	上ノ国町字勝山141-1 番地	013625	C-02-54	41°48'50"	140°6'33"	平成24年5月7日 平成24年10月11日	144m ² 風力発電所に伴う送電線支持物(鉄塔)建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
大岱遺跡	集落	縄文	堅穴建物跡9件、土壙3基、溝1条、柱穴	縄文土器、石器、土製品、石製品、陶磁器、鉄製品、銅製品、自然遺物			

大岱遺跡

-風力発電所に伴う送電線支持物(鉄塔)建設事業に係る発掘調査報告書-

発行：上ノ国町教育委員会

北海道檜山郡上ノ国町字大留100

印刷：平成24年12月14日

発行：平成24年12月28日

印刷所：柳長門出版社印刷部
